

【別紙24】 資料一覧

図書資料等附属情報登録の考え方 全3ページ

さいたま市図書整理仕様書 全31ページ

さいたま市視聴覚資料整理仕様書 全15ページ

図書資料等附属情報登録の考え方

さいたま市の図書館では、書誌情報をMARC (Machine-Readable Cataloging 機械可読目録) として、図書資料及びAV資料ともに、TRC-MARC/Tタイプを主に使用している。新大宮図書館と中央図書館及び各拠点図書館との業務の整合性のため、購入した資料のデータ(以下、ローカルデータという)について、次のとおり納品すること。

- 1 資料は、「さいたま市図書整理仕様書」、「さいたま市視聴覚資料整理仕様書」に基づき、
装備すること。
なお、ICタグの貼付についても装備の一部とする。ICタグの仕様及び動作確認については、次頁以降の①~③を参照のこと。なお、バーコードとICタグについては、バーコード・ICタグ一体型の使用も可能とする。
- 2 さいたま市の指定するフォーマットで、ローカルデータを作成すること。なお、データ情報に TRC-MARC No. がない場合は、さいたま市の指定する情報をローカルデータに含むこと。
TRC-MARCに登録されていない書誌情報については、別途書誌情報を用意すること。
- 3 資料に貼付したICタグに、さいたま市が指定するフォーマットで当該資料の資料番号を書き込む(以下、エンコードという)こと。
また、ICタグのUID並びにエンコードした資料番号の対照データを作成すること。

①さいたま市図書館図書・雑誌用 IC タグ

ハードウェア仕様	満たすべき機能等
準拠規格	ISO15693 (Tag-it, my-d, I-CODE SLI)
通信周波数	13.56MHz
通信速度	26.5kbit/s 以上
容量	128byte 以上 (ユーザエリア 112byte 以上)
データ保持期間	10 年以上
データ書込み回数	10 万回以上
大きさ	35mm 以上×65mm 以上 60mm 以下×90mm 以下
通信距離	受付カウンタ機器 25cm 以上 ゲート装置 ゲート巾 最大 100cm (芯々)
動作温度	-10℃～+50℃
参考型番 (例)	内田洋行製図書用 IC タグ my-d チップ 型式 U-TAG-L1000m
その他	さいたま市図書館電算システム (株式会社サン・データセンター製) の IC タグ連携機能が正常に動作すること。

②さいたま市図書館視聴覚資料用 IC タグ

ハードウェア仕様	満たすべき機能等
準拠規格	ISO15693 (Tag-it, my-d, I-CODE SLI)
通信周波数	13.56MHz
通信速度	26.5kbit/s 以上
容量	128byte 以上 (ユーザエリア 112byte 以上)
データ保持期間	10 年以上
データ書込み回数	10 万回以上
大きさ	外形 116±0.5mm (内径 41±0.5mm)
形状	盤面貼付
材質	無色透明
通信距離	受付カウンタ機器 25cm 以上 ゲート装置 ゲート巾 最大 100cm (芯々)
動作温度	-10℃～+70℃
その他	さいたま市図書館電算システム (株式会社サン・データセンター製) の IC タグ連携機能が正常に動作すること。

③同等品の IC タグの動作確認について

さいたま市図書館では、本市図書館電算システム（株式会社サン・データセンター製）の IC タグ連携機能が正常に動作するか、次の確認作業を行う。

この確認作業の要件をすべて満たさないものは、正常に動作すると見做さないものとする。

事前準備

本市図書館の IC タグフォーマットによりエンコードし、それぞれの資料に貼付した状態とする。

確認作業

- ① 厚さ 25mm の図書を 10 冊積み重ねて、IC タグ読み書き装置で貸出返却処理が可能であること。また、自動貸出機で貸出処理が可能であること。以上の確認作業を、資料を替え 10 回行い、正常に作動すること。セキュリティゲートにおいて、貸出済資料は反応しないこと。返却済資料は反応すること。
- ② 厚さ 5 mm 以下の図書を 10 冊積み重ねて、IC タグ読み書き装置で貸出返却処理が可能であること。また、自動貸出機で貸出処理が可能であること。以上の確認作業を、資料を替え 10 回行い、正常に作動すること。セキュリティゲートにおいて、貸出済資料は反応しないこと。返却済資料は反応すること。
- ③ CD 及び DVD を 10 枚積み重ねて、IC タグ読み書き装置で貸出返却処理が可能であること。また、自動貸出機で貸出処理が可能であること。以上の確認作業を、資料を替え 10 回行い、正常に作動すること。セキュリティゲートにおいて、貸出済資料は反応しないこと。返却済資料は反応すること。
- ④ 上記①～③を 10 点混在させて積み重ねた際に、IC タグ読み書き装置で貸出返却処理が可能であること。また、自動貸出機で貸出処理が可能であること。以上の確認作業を、資料を替え 10 回行い、正常に作動すること。セキュリティゲートにおいて、貸出済資料は反応しないこと。返却済資料は反応すること。
- ⑤ さいたま市図書館で既に使用している IC タグ（参考型番に記載のもの）と混在させた際に、上記①～④の要件で、IC タグ読み書き装置で貸出返却処理が可能であること。また、自動貸出機で貸出処理が可能であること。以上の確認作業を、資料を替え 10 回行い、正常に作動すること。セキュリティゲートにおいて、貸出済資料は反応しないこと。返却済資料は反応すること。

図書整理仕様書

2015

さいたま市図書館

1 一般書

1.1 請求記号

請求記号は、別置記号、分類記号、図書記号、巻冊記号で構成する。

1.11 分類記号

日本十進分類法(NDC)新訂9版(以下9版という)を使用する。

使用桁数の制限はしない。

1.111 ローカルデータ上の分類記号は、下記の例外を除きポイント以下2桁までとする。

日本文学、英米文学の、記録・手記・ルポルタージュはさいたま市図書館分類表1のように細区分できる。

例外

- (1) 日本文学・中国文学を除く、9△1~9△5、9△8は時代区分せず、3桁短縮形とする。
 - (2) 各国語文学はポイント以下3桁まで展開する。
 - (3) 日本文学を除く、作家の個人伝記〔作家研究〕は作家の列伝9△0.28とする。
 - (4) 910.268および911はポイント以下3桁までとする。
 - (5) コンピュータ関係の主題はさいたま市図書館分類表2を用いて細区分できる。
 - (6) 中央図書館所蔵の医学については、ポイント以下3桁までとする。
- なお、最終桁が、「0」となるときは、これを削除する。

1.12 別置記号

下記に該当する資料を別置する場合のみ、分類記号の前に別置記号を付与する。

- ①参考図書には「R」
 - ②地域資料には「S」
 - ③文庫には「B」
 - ④大活字本には「L」をつける。
- なお、別置記号は重ねて用いない。

1.13 図書記号

図書記号はすべての分類記号に付与する。

1.131 図書記号の選定

図書記号は原則として、著者(二人共著は第一著者)の姓の頭文字二字までをカナで付す。ただし1.132から1.135までのものは例外とする。

長音符は省略、拗音・促音は直音とする。

(例 バンドウ→バン ヴェルディ→ヴェ ショウジ→シヨ
ミッチェル→ミツ)

1.132 書名から選ぶ場合

三人以上の著者による著作物は書名の頭文字二字までをカナで付す。

同分類になる全集、講座、アンソロジー等のシリーズは、そのシリーズ名の頭文字二字までをカナで付す。

ただし、個人全集及び1部数冊からなる同一著作物は除く。

著者がいない場合及び無著者名古典は書名の頭文字二字をカナで付す。

1.133 被伝者名から選ぶ場合

「289」個人の伝記及び1類、7類、9類の評伝・作家論、作品論については、被伝者の姓の頭文字二字までをカナで付す。

1.134 源氏物語「913.36」の研究書及び個人訳は、その著者及び訳者の姓の頭文字二字までをカナで付す。著者及び訳者が三人以上の場合、著者がいない場合は、書名の頭文字二字までをカナで付す。

1.135 地域資料については、自治体の頭文字二字をつけることができる。

1.14 巻冊記号

背書名に巻次が不明なものや推測できない場合は算用数字を用いてその巻数を表示する。

1.2 資料番号

1.21 資料番号は館コード、資料種別コードと一連番号で構成する。

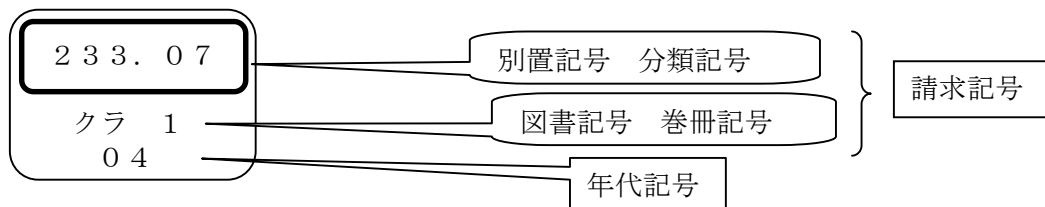
1.22 資料番号は別表1 資料番号表の範囲内で使用できる

1.3 装備

1.31 背ラベル

1.311 背ラベルには、請求記号（別置記号・分類記号・図書記号・巻冊記号）及び年代記号を印字する。

1.312 背ラベルの上段に別置記号・分類記号、中段に図書記号・巻冊記号、下段に年代記号を印字する。図書記号と巻冊記号の間はスペースを空ける。大きさは、原則として18mm × 22mmとする。



上段を色枠付きとし、請求記号を印字する。枠線は、さいたま市図書館分類表 3 緑色ラベルを使用する分類一覧表にしたがい、「小説・物語」「評論・エッセイ」に分類した場合は緑色、そのほかは濃藍色に色分けする。

別置する文庫は、12mm×24mmの白無地を使用し、上段に別置記号・分類記号、下段に図書記号・巻冊記号を印字する。

1.313 背ラベルの貼付位置は、背表紙の最下部より15mm離れた位置とする。

ただし、その部分に書名・著者・出版社等で必要な情報があるときは、そこを避けて貼付することができる。

1.32 年代記号

年代記号は出版の西暦年の末2桁を記入する。

例 2003年は→03

2010年は→10

1.321 出版年は、その版の1刷を採用する。

1.33 背ラベルを補助するものとして、各館の実状に応じてシール等を貼ることができる。

1.34 バーコードラベル

1.341 バーコードラベルは館名、電話番号入りとし、バーは、館コード2桁、資料種別コード1桁、受入番号7桁、チェックデジット1桁の計11桁とし、それぞれの間にハイフンをいれる。

1.342 大きさは25mm×45mmとする。

1.343 バーコードラベルは本体の下1/2を超えない範囲で書名・巻号・文字情報・重要な図を避けて貼付する。

原則として、図書の背を左にして左下部に貼付する。

タトルテープ対応自動貸出機導入館は従来どおりとする。

1.344 バーコードラベルのデザインは別表2のとおりとする。

1.35 ICタグ

平成17年度以降ICタグを装備することとした図書館の図書に貼付する。

貼付に際しては「さいたま市図書館ICタグ貼付仕様書」に準ずることとする。

なお、「1.34」と同様のバーコードラベルも同時に貼付する。

1.36 ブックダイデクション（BDS）用のタトルテープ

BDS 導入館においては貼付する。

一般書の全てに両面のりつきテープを奥付の裏ページと遊び紙の間の、のど部分に貼る。

ワイヤー本は、できるだけ目立たないところに貼り、白いシールで隠す。

1.37 フィルムによる保護カバーの被覆

- ・ 特殊装丁の図書をのぞき、図書の全面に透明粘着フィルムを被覆する。

- ・ ブックジャケットのあるものは本体に付けたまま被覆する。

ただし、見返しに文章・図等がある場合は、それが見えるようにブックジャケットの折り返しを切り取る。切り取った部分に著者の紹介等の記載がある場合は、切り取った部分を裏表紙の裏側に貼付する。または、はさんだまま納品する。

- ・ 本に溝がある場合は溝に沿わせる。また、折り返しがあまくならないように注意する。

- ・ 帯は原則として廃棄する。ただし、背書名を補助するものや装丁の一部とみなすものは、本体に付けたまま透明粘着フィルムを被覆する。

1.38 付録、参考資料

- ・ 型紙・地図等で資料本体につけたまま利用することができる場合は、離脱しないように補強・固定し、利用できない場合は袋に入れ裏表紙の内側（配本所用図書は表紙の内側）に装備する。

- ・ 付属フロッピーディスク・CD・CD-ROM・DVD・カセットは、専用袋に入れて裏表紙の内側に貼る。本体には登録番号を記入した館名入り登録番号ラベルを貼る。カセットは外ケースと共に納品する。

1.381 月報、冊子体の付録

おもて表紙と遊び紙の間に貼付する。

複数枚にわたるものは、ステープル（ステンレス針）で2箇所をとめてから貼付する。

1.382 正誤表

遊び紙ののど寄りに貼付する。遊び紙がない場合は、おもて表紙の裏に貼付する。

なお、正誤表が多巻に及ぶものやシールのもの、遊び紙及びおもて表紙の裏に図等がある場合は、貼付せずに本に挟んだまま納品する。

2 児童書

2.1 請求記号

請求記号は、分類記号、別置記号、図書記号で構成する。

2.11 分類記号

日本十進分類法(NDC)新訂9版を使用する。使用桁数は3桁とする。

2.111 9類については、つぎのような別の分類表による。

文学の分類は言語（国語）区分を削除した形とし、文学類の次にハイフン「-」を用い、これに文学形式区分を付与する。

- | | |
|---------------------|-------------|
| ① 「910」「920」「930」等々 | 「K 9 - 0」 |
| ② 詩歌 | 「K 9 - 1」 |
| ③ 戯曲 | 「K 9 - 2」 |
| ④ 物語 | 「K 9」+図書記号 |
| 必要に応じ、つぎのように細区分できる | |
| ア 低学年用物語 | 「T 9」+図書記号 |
| イ 笑い話・恐い話 | 「K 9 - 3 3」 |
| ウ SF・推理 | 「K 9 - 3 6」 |
| エ 民話・神話 | 「K 9 - 3 7」 |
| オ 古典（日本） | 「K 9 - 3 8」 |
| ⑤ エッセイ | 「K 9 - 4」 |
| ⑥ 日記・書簡・紀行 | 「K 9 - 5」 |
| ⑦ ルポルタージュ | 「K 9 - 6」 |
| 必要に応じ、つぎのように細区分できる | |
| ア 戦争・平和 | 「K 9 - 6 2」 |
| イ ハンディキャップ | 「K 9 - 6 3」 |
| ウ 闘病記 | 「K 9 - 6 4」 |
| エ 環境問題 | 「K 9 - 6 5」 |
| ⑨ 全集 | 「K 9 - 8」 |

2.112 絵本については、「E」をもって分類記号とし、別置記号「K」は付与しない。

図書記号（画家の姓の頭文字二字）をあわせ請求記号とする。また、ローカルデータや背ラベルには短縮した「E」のみや省略した形をとることもできる。

2.113 紙芝居については「P」をもって分類記号とし、別置記号「K」は付与しない。

背ラベルは「P」を省略する。

2.12 別置記号

分類記号の前に、別置記号「K」を付与する。

参考図書は「KR」を付与する。

低学年用物語は、必要に応じて「T」を付与することができる。

2.13 図書記号

図書記号を使用するものは以下のとおりとする。

伝記「K 2 8 9」は、被伝者の姓の頭文字二字をカナで付す。

物語「K 9」は、著者の姓の頭文字二字をカナで付す。

低学年用物語「T 9」は、著者の姓の頭文字二字をカナで付す。

絵本は、画家の姓の頭文字二字をカナで付す。

ただし、無著者名の著作物及び多人数の著作物は、書名の頭文字二字をカナで付す。

2.2 装備

2.21 背ラベル

2.211 背ラベルは、12mm×24mmの白無地を使用し、請求記号を印字する。

2.212 背ラベルに別置記号、分類記号を表示する。

2.213 背ラベルの貼付位置は、背表紙の最下部より15mm離れた位置とする。ただし、その部分に書名・著者・出版社等で必要な情報があるときは、そこを避けて貼付することができる。

2.214 背ラベルを補助するものとして、各館の実状に応じシール等を貼ることができる。

2.22 バーコードラベル

2.221 バーコードラベルは本体の下1/2を超えない範囲で書名・巻号・文字情報・重要な図を避けて貼付する。

裏表紙の背より2cmの位置を基準とする。

タトルテープ対応自動貸出機導入館は従来どおりとする。

2.222 紙芝居については、本体文章側第一場面、天から2cm、左から1cmに貼付する。

文字情報や重要な図がある場合は、左上1/4の範囲で文字情報を避けて添付する。

タトルテープ対応自動貸出機導入館は従来どおりとする。

2.23 ICタグ

1.35の一般書に準じる。

2.24 フィルムによる保護カバーの被覆

1.37の一般書に準じる。

2.25 付録、参考資料があるとき

1.38の一般書に準じる。

2.251 月報、冊子体の付録

1.381の一般書に準じる。

2.252 正誤表

1.382の一般書に準じる。

3 外国語資料（一般書）

3.1 請求記号

1.1 の一般書に準じる。

3.11 分類記号

1.11 の一般書に準じる。

3.111 ローカルデータ上の分類記号は 1.111 の一般書に準ずる。

3.12 別置記号

1.12 の一般書に準じる。

3.13 図書記号

1.13 の一般書に準じる。

使用する文字はアルファベットの大文字とする。非アルファベット言語はアルファベットに置き換えて使用する。

3.131 図書記号の選定

図書記号は原則として、著者（二人共著は第一著者）の姓の頭文字三字までをアルファベットで付す。ただし 3.132 から 3.135 までのものは例外とする。

3.132 書名から選ぶ場合

三人以上の著者による著作物は書名の頭文字三字までをアルファベットで付す。

同分類になる全集、講座、アンソロジー等のシリーズは、そのシリーズ名の頭文字三字までをアルファベットで付す。

ただし、個人全集及び 1 部数冊からなる同一著作物は除く。

著者がいない場合及び無著者名古典は書名の頭文字三字をアルファベットで付す。

3.133 被伝者名から選ぶ場合

「289」個人の伝記及び 1 類、7 類、9 類の評伝・作家論、作品論については、被伝者の姓の頭文字三字までをアルファベットで付す。

3.134 源氏物語「913.36」の研究書及び個人訳は、その著者及び訳者の姓の頭文字三字までをアルファベットで付す。著者及び訳者が三人以上の場合、著者がいない場合は、書名の頭文字三字までをアルファベットで付す。

3.135 地域資料については、自治体の頭文字三字をアルファベットで付与することができる。

3.14 から 3.382

1.14 から 1.382 の一般書に準じる。

4 外国語資料（児童書）

4.1 請求記号

請求記号は、分類記号、別置記号、図書記号で構成される。

4.11 分類記号

2.11 の児童書に準じる。

4.111 2.111 の児童書に準じる。

4.112 絵本については「E」をもって分類記号とし、別置記号「K」は付与しない。

図書記号（画家名アルファベット三文字）をあわせ請求記号とする。また、ローカルデータや背ラベルには短縮した「E」のみや省略した形をとることもできる。

4.113 紙芝居については 2.113 の児童書に準じる。

4.12 別置記号

2.12 の児童書に準じる。

4.13 図書記号

使用する文字はアルファベットの太文字とする。非アルファベット言語はアルファベットに置き換えて使用する。

図書記号を使用するものは以下のとおりとする。

伝記「K 2 8 9」は、被伝者の頭文字三字をアルファベットで付す。

物語「K 9」は、著者の頭文字三字をアルファベットで付す。

絵本は画家の頭文字三字をアルファベットで付す。

ただし、無著者名の著作物及び多人数の著作物は、書名の頭文字三字をアルファベットで付す。

4.2 装備

4.21 背ラベル

4.211 背ラベルは 2.211 の児童書に準じる。

4.212 背ラベルの上段に分類記号、下段に図書記号を表示する。

4.213 から 4.252

2.213 から 2.252 の児童書に準じる。

5 配本所用図書

5.1 配本所用図書は別にブックカード、ブックポケット、期限票を貼付する。

5.11 ブックカード

ブックカードは、一般書：橙色、児童書：水色の色上質紙（特厚口）を使用し、大きさは90mm×58mmとし、以下の処理をする。

① 図書の背に大きく印刷されている書名を記入する。

（双書名のある場合はこれも記入する）

② 受入番号をナンバーリング8桁で押印する。

館コード・資料種別を除き、受入番号+チェックデジ

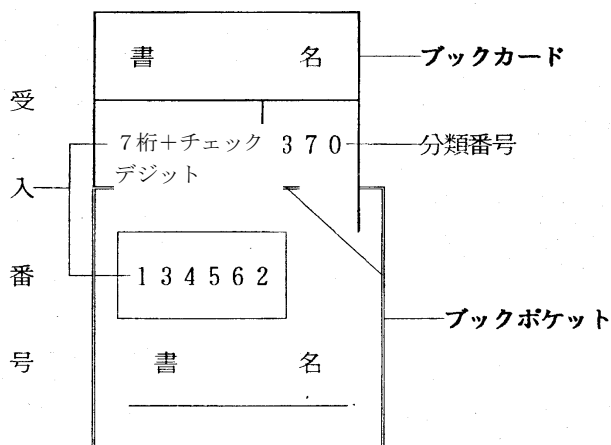
ット

③ 分類記号を表示する。

①書名	
②受入番号	③分類

5.12 ブックポケット

ブックポケットは、青色の色上質紙（厚口）を使用し、大きさは83mm×60mmとする。ブックカードに記入した書名、双書名をブックポケットにも記入するほか、ナンバーリングで受入番号を押印する。貼付する位置は、前小口を上にした左側の表紙の裏左側とし、おおむね、地より20mm、のどより10mm離れた位置とする。なお、貼付したブックポケットにブックカードを挿入する。



5.13 期限票

期限票の紙質、大きさ等については見本どおりとする。貼付する位置は、ブックポケットの貼付位置の右側（あそび紙）とし、天より15mm、のどより15mm、離れた位置とする。

なお、見返し紙に、本文の理解度を深めるために印刷された地図、イラストまたは表などの参考資料があるときは、不用の印刷カードを利用し、A面（左側）に期限票を、B面（右側）にブックポケットを貼付し、接着テープ等により、これを貼付する。

(かえす日) さいたま市立大宮西部図書館	
期限票 ☎ 664-4946	
☆この本は、2週間借りられます。	
☆かえす日は、きちんと守りましょう。	

6 その他

6.1 以上のほか、取り決めのないものについては、別途協議する。

この規程は平成27年4月1日から施行する。

図書資料整理仕様詳細		
該当	内容	詳細説明
1.111	分類記号	さいたま市図書館分類表による指示(入力)のとおりとし、指示がなければ細区分しない
1.311	巻冊記号	全館でつけるのを原則とする。指示(入力)により印字して付与する
1.312	背ラベルの種類	さいたま市図書館分類表 3の指示(入力)による場合は緑色枠ラベルを用いる 児童書、別置記号を指示(入力)した文庫は白無地ラベルを貼付する
1.313	背ラベルの貼付位置	背表紙の最下部より15mmの高さを基本とする。ただし、次の情報は優先順位により隠さず、本体の下部1/2の範囲に貼付する。①著者名②書名③巻号④サブタイトル・シリーズ名⑤出版社。したがって、最下部からの高さは一律にはならない うすい本は別置記号(アルファベット)ではなく、分類(数字)の頭が見えるように貼付 ワイヤ綴じのように背に貼付できない場合は貼付するバーコードと反対の面に貼付
1.343	バーコードラベルの貼付位置(一般書・文庫)	一般書、文庫については背を左にして左下部に貼付する タクトテープ対応自動貸出機導入館(=東浦和図書館)の所蔵資料のみ、背を右にして右下部に貼付 背より2cm、地より2cmの位置を基本とする。ただし、①書名②著者名③巻号④本編に全く記述がない情報(記述が異なっても本編の内容をピックアップしたものは含まない)は隠さないよう避ける。本体の下部1/2の範囲にとどまるよう避けるが、装丁によりこの限りではない
1.35	ICタグの貼付	別添 さいたま市立図書館 ICタグ貼付仕様書による
1.37	フィルムによる被覆	フィルムは2重以上にならないよう角をカットして被覆する
	帯・ケースの扱い	図書館の指示により、帯やケースを背書名の補助や図書の装丁デザインの一部として用いる。指示がなければ帯やケースは原則廃棄
	切り取ったブックジャケットの折り返しの扱い	著者紹介等の記載があり、貼付位置の裏表紙の裏側に重要な記述がある場合は、検収時に容易にわかるように本体にはさんで納品する
1.38	型紙・地図等	紛失を避けるため、本体に綴じつけられている型紙・地図等で、本体につけたまま利用することができる場合は外さず補強する 本体に付けたままでは利用できない場合は袋に入れる。袋は本体 のど にフィルムで両面貼り付ける。子番号シールにハイフンを除いたバーコード番号を記入して取り外しの付録資料に貼付する。子番号シールにフィルム貼付は不要。貼付したバーコード付近に「付属資料あり」のシールを貼付する
	CD、CD-ROM、DVD	CD、CD-ROM、DVDはストック袋に入れ、本体と、ストック袋に子番号シールにハイフンを除いたバーコード番号を記入して貼付する。 CDの場合、上記の処理をしたストック袋を資料本体 のど にフィルムで両面貼り付ける 職員が図書館における利用方法を発行元に確認するため、CD-ROM、DVDを入れたストック袋は、上記シール貼付の処理をしたうえで、本体には貼り付けず、「付録未処理」等メモを付けて納品する
1.381	月報・冊子体の付録	おおむね巻末に貼付することとする 複数枚にわたる月報等は、本体、付録のページの開き具合、離脱に配慮した位置でとめる
	スリップ、広告等	スリップ、広告、読者はがきなどは除く。貼付しないしおりはそのままはさんでおく
1.382	正誤表	拡大・縮小などの処理はせず、表紙に近い記述のないページに貼付する 印刷が片面の場合は正誤表の全体をフィルムで覆う 印刷が両面の場合は貼付ページの のど 寄りに、テープ状にカットしたフィルムでつける
2.213	背ラベルの貼付位置	背表紙の最下部より15mmの高さを基本とする。ただし、①著者名②書名③巻号④サブタイトル・シリーズ名⑤出版社は隠さないよう本体の背表紙の下部1/2の範囲にとどまるよう避けるが、装丁によりこの限りではない

		うすい本は別置記号(アルファベット)ではなく、分類(数字)の頭が見えるように貼付
2.22	バーコードラベルの貼付位置(児童書)	裏表紙に貼付する タトルテープ対応自動貸出機導入館(=東浦和図書館)の所蔵資料のみ、背を右にして右下部に貼付 背より2cm、地より2cmの位置を基本とする。ただし、①書名②著者名③巻号④本編に全く記述がない情報(記述が異なっても本編の内容をピックアップしたものは含まない)は隠さないよう避ける
2.24	ブックジャケット折り返し部分の処理	切り取った部分に情報がある児童書は、はさんだまま納品する
別表 1	「文庫」の資料番号体系は設けない	資料番号体系を整理し、文庫は一般と同じ番号体系とする。残存するバーコードの使用は差し支えないが、今後「文庫」のバーコード作成はおこなわない 与えた資料番号順に明細を作成するが、請求書作成時にはまとめる。統計処理は「資料区分」により行う

ICタグ貼付仕様書

3	貼付位置	優先順位②から⑦で指示した面にも絵・図・文字情報等がある児童書は、ICタグを入れる指定の封筒に入れ、封筒の片側だけを本体に貼り付け、捲れるように装備することもできる
6, 7	ICタグの被覆	ICタグは、ブックジャケット等で覆われる面以外、透明粘着フィルムで被覆する

(別表1) 資料番号表

資料種別	形 式
一般書・文庫＝1	11-1-XXXXXXXX-X
児童書＝2	11-2-XXXXXXXX-X
雑誌＝4	11-4-XXXXXXXX-X
視聴覚資料＝5	11-5-XXXXXXXX-X
視聴覚ライブラリー＝7	11-7-XXXXXXXX-X

××-×-×××××××-×

館コード 資料種別 受入番号(一連番号) チェックデジット

(2) (1) (7) (1)

(別表2) 館コード・図書館名・バーコードラベルの色

館コード	図書館名	色(区の色: DIC カラーガイド番号)
01	さいたま市立中央図書館	あか (DIC-2497)
11	さいたま市立北浦和図書館	あか (DIC-2497)
12	さいたま市立南浦和図書館	レモン色 (DIC-2538)
13	さいたま市立東浦和図書館	みどり (DIC-172)
14	さいたま市立大宮図書館	オレンジ (DIC-204)
15	さいたま市立大宮西部図書館	ふかみどり (DIC-2563)
16	さいたま市立大宮東図書館	そらいろ (DIC-2185)
17	さいたま市立春野図書館	そらいろ (DIC-2185)
18	さいたま市立七里図書館	そらいろ (DIC-2185)
19	さいたま市立宮原図書館	ふかみどり (DIC-2563)
20	さいたま市立馬宮図書館	あお (DIC-139)
21	さいたま市立与野図書館	バラ色 (DIC-76)
22	さいたま市立桜木図書館	オレンジ (DIC-204)
23	さいたま市立桜図書館	さくら色 (DIC-2005)
24	さいたま市立岩槻図書館	やまぶき色 (DIC-206)
25	さいたま市立岩槻駅東口図書館	やまぶき色 (DIC-206)
26	さいたま市立岩槻東部図書館	やまぶき色 (DIC-206)
27	さいたま市立片柳図書館	そらいろ (DIC-2185)
28	さいたま市立北図書館	ふかみどり (DIC-2563)
29	さいたま市立武蔵浦和図書館	レモン色 (DIC-2538)
30	さいたま市立美園図書館	みどり (DIC-172)
52	さいたま市立大宮西部図書館三橋分館	あお (DIC-139)
53	さいたま市立与野南図書館	バラ色 (DIC-76)
54	さいたま市立与野図書館西分館	バラ色 (DIC-76)
55	さいたま市立桜図書館大久保東分館	さくら色 (DIC-2005)
62	さいたま市立大宮西部図書館移動図書館	ふかみどり (DIC-2563)
65	さいたま市立大宮西部図書館配本所	ふかみどり (DIC-2563)
70	さいたま市立視聴覚ライブラリー	ふかみどり (DIC-2563)

さいたま市図書館分類表 1

9版分類番号	細分類	項目
9△6 (△→1、3)	9△6.1+ 図書記号	ドキュメント
	9△6.2+ 図書記号	生活記録、手記
	9△6.3+ 図書記号	闘病記
	9△6.5+ 図書記号	戦記

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
007 007.1	情報科学 情報理論	暗号化理論は、ここに収める。セキュリティの側面が強い場合は、547.4839に収める。[05/12/11]	
007.11	サイバネティックス		
007.13	人工知能. パターン認識		
007.3	情報と社会: 情報政策	情報法<一般>は、ここに収める。	ユビキタス(ubiquitous),
007.35	情報産業. 情報サービス	ITにおける個人情報保護法については、ここに収める。 [05/12/12] ITにおける個人情報保護法については、336.17に収める。 [09/03/11]	SE(System Enginner)は、ここに収める。[09/03/11]
007.58	情報検索. 機械検索 * データベース<一般>の検索は、ここに収める。	全文検索システムについては、ここに収める。ただし、プログラミングに関するものは、007.64に収める。	Namazu, yahoo[09/03/11], google[09/03/11],
007.6	データ処理. 情報処理	データマイニングは、ここに収める。[09/03/11]	SAP R/3(→336.57?)
007.609	データ管理. データベース保全	データベース管理システム開発のためのプログラム言語は、ここに収める。データベース管理システムの開発は、ここに収める。データベースソフトウェアは、007.6319に収める。コンピュータウイルス検知・駆除ソフトウェアは、547.4839に収める。	SQL, データマイニング(?) [09/03/11] Oracleは、007.6319に収める。[09/03/11] MySQL, PostgreSQLなど、ソフトウェア製品として確立しているものは、007.6319に収める。[09/03/11]
007.61	システム分析. システム設計	システム開発<一般>、ソフトウェア開発<一般>、ソフトウェア工学<一般>は、ここに収める。 コンピュータシステム構築、ソフトウェア開発・手法は、ここに収める。ただし、007.632/637に属するソフトウェアの開発は007.632/637に、特定の主題に関するソフトウェアの開発は、各主題の下に収める。 データベース管理システムの開発は、007.609に収める。 クライアント/サーバー・システムは、ここに収める。 組み込みI/Oは、ここに収める。[09/03/11] UML(Unified Modeling Language)は、ここに収める。 [09/03/11] シンクライアントは、ここに収める。(→:336.57)[09/03/11] オブジェクト指向の概念説明は、ここに収める。オブジェクト指向プログラミングは、007.64に収める。[09/03/11] 仮想化技術は、ここに収める。[09/03/11]	MDA(Model Driven Architecture)は、ここに収める。
007.63	コンピュータ・システム. ソフトウェア	圧縮・解凍ソフトウェアは、ここに収める。 圧縮・解凍の理論については、007.64に収める。 Mathematica(マセマティカ)は、410に収める。 MATLABは(マットラブ)、410に収める。	Norton Systemworks,

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
007. 631	ソフトウェア. アプリケーション	エディタは、ここに収める。スパイウェア対策は、547.4839に収める。	StandbyDisk, 秀丸エディタ, TeraPad, Emacs,
007. 6311	統合型ソフトウェア	ここには、007.6311/007.6319に属する複数のソフトウェアをまとめて一つのパッケージとしたソフトウェアに関するものを収める。パッケージとして名称がなくても、007.6311/007.6319に属する複数のソフトウェアを一冊で扱っているものも、ここに収める。	Microsoft Office, StarSuite, OpenOffice,
007. 6312	文書作成ソフトウェア	コンピュータを用いた編集用ソフトウェアは、021.49に収める。	Microsoft Word, 一太郎, 筆まめ, 筆王, 筆ぐるめ, OASYS, Lotus Word Pro, EGWORD, Kacis
007. 6313	表計算ソフトウェア	財務・会計ソフトウェアは、336.9に収める。	Microsoft Excel, 三四郎, Lotus 1-2-3[09/03/11],
007. 6314	プレゼンテーションソフトウェア		Microsoft PowerPoint, Lotus Freelance, Agree (Justsystem) [09/03/11],
007. 6315	スケジュールソフトウェア		Microsoft Outlook,
007. 6316	[未決定・保留]		
007. 6317	[未決定・保留]		
007. 6318	[未決定・保留]		
007. 6319	データベースソフトウェア	データベースソフトウェアは、ここに収める。データベース管理システム開発のためのプログラム言語は、007.609に収める。 MySQL, PostgresQLなど、ソフトウェア製品として確立しているものは、007.6319に収める。[09/03/11]	Microsoft Access, FileMakerPro, DB2, HiRDB, Oracle, Hibernate, SQL Server, Firebird, Interbase, 桐, Lotus Approach, MySQL[09/03/11], PostgreSQL[09/03/11],
007. 632	エキスパート・システム		
007. 634	オペレーティング・システム	OSのエミュレータは、ここに収める。	Vitrual PC, VMware,
007. 6341	UNIX	Linux, BSDは、ここに収める。サーバー用OSは、ここに収める。サーバー構築全般は、547.4836に収める。	Fedora Core, Knoppix, Solaris, Lindows,
007. 6342	DOS	MS-DOS, PC-DOSは、ここに収める	DR-DOS,
007. 6343	MacOS	サーバー用OSは、ここに収める。サーバー構築全般は、547.4836に収める。	Quicktime for Macintosh,
007. 6344	Windows	サーバー用OSは、ここに収める。サーバー構築全般は、547.4836に収める。	レジストリ, Direct X, Quicktime for Windows, Windows Media Player,
007. 6345	[未決定・保留]		
007. 6346	[未決定・保留]		
007. 6347	[未決定・保留]		
007. 6348	[未決定・保留]		
007. 6349	その他のオペレーティング・システム		CP/M, TRON, BeOS, 超漢字,

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
007. 635	漢字処理システム	かな漢字変換ソフトウェアは、ここに収める。 文字コードは、ここに収める。[06/02/16]	ATOK, Microsoft IME,
007. 636	機械翻訳	翻訳ソフトウェアは、ここに収める。	
007. 637	図形処理ソフトウェア	画像については、ここに収める。 グラフィック、ドロー、ペイント等各画像処理ソフトウェアの使い方については、ここに収める。 画像処理を目的としたプログラミングについては、007.462に収める。	Adobe Illustrator, Adobe Photoshop, 花子, Gimp, Shade, Metasequoia (メタセコイア), 3ds max[09/03/11], LightWave 3D, Gnuplot(?), Microsoft Visio, PictBear, Painter, Paint Shop Pro, Maya, Blender, 六角大王, デジカメNinja, CARRARA STUDIO, Deneba, Canvas, Bryce, Expression 3J, Ulead PhotoImpact, Microsoft PhotoDraw, Micrografx Picture Publisher, Adobe PhotoDeluxe, POV-Ray, PhotoCrew, trueSpace, Picture It!, CORAL Draw, RenderWare Graphics, WonderCube, Color It, Kai's Power Tool,
007.6377	動画編集ソフトウェア 処理	動画再生ソフトウェアは、元となるオペレーティング・システムの下に収める。 DTV(デスクトップ・ビデオ)ソフトウェアは、ここに収める。 オーサリングソフトは、ここに収める。 ノンリニア編集については、ここに収める。	Adobe Premiere, Adobe After Effects, motion dive .tokyo, Poser, Softimage(?), Ulead Cool 3D, RETAS!PRO Infinity, Aura, Ray Dream (Studio), Macromedia Extreme, Flash Maker, TMPGEnc, Ulead Video Studio, FinalCutPro, DivX, Power Director, MegaVi DigitalVideo, Autodesk 3ds max[09/03/11], H.264/MPEG-4AVC[09/03/11],
[007. 638]	ワープロソフトウェア		
007. 639	音声処理ソフトウェア		MP3, Ogg Vorbis,
007. 64	コンピュータ・プログラミング. アルゴリズム. プログラミング言語	特定のソフトウェアに限定したVBAは、それぞれのソフトウェア下に収める。 特定目的のためのプログラミングは、その目的下に収める。 例)「IPv6ネットワークプログラミング」→547.482[05/12/11 (例の部分)] コンパイラは、ここに収める。[09/03/11]	Java, JDBC, Delphi, C++, Eclipse, Microsoft Visual Studio .NET, Perl (Perl/CGI→547.4836), Tcl, Python, Squeak, Lisp, NetBeans, HSP, Ruby, MFC, 正規表現, アルゴリズム, COBOL, Fortran, Visual Basic, Win 32 API, CLR, HyperCard, SuperCard, Borland Kylix(カイルリックス), WideStudio, AppleScript Studio, SmallTalk, UML(→007.61)[09/03/11], WPF/XAML[09/03/11], 組み込みソフトウェア[09/03/11], Javaサーブレット[09/03/11], Eclipse(統合開発環境)[09/03/11],
007. 642	コンピュータ・グラフィックス * CADなど設計・製図に用途を限定したものは、501.8に収める * 図形処理ソフトウェアのプログラミング<一般>はここに収める	画像処理を目的としたプログラミングについては、ここに収める。	コンピュータグラフィックス, OpenGL, 3次元形状処理, Lingo, DirectX[09/03/11],
007. 65	各種の記憶媒体	使用しない。→548.235	
021. 49	コンピュータによる編集 * DTPは、ここに収める	DTP(デスクトップ・パブリッシング)ソフトウェアは、ここに収める。	Adobe Acrobat, Adobe PageMaker, Adobe InDesign, QuarkXPress, G. Crew, LATEX[09/03/11],
336. 56	事務機器 →: 582.3	→582.33	
336. 57	事務の機械化. コンピュータ・システム →: 007.6		

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
336.9	財務会計[企業会計]. 会計学	財務・会計ソフトウェアは、ここに収める。	勤定奉行, 弥生会計, 大蔵大臣,
448.9[09/03/11]	測地学. 地図学	Google Earthは、ここに収める。[09/03/11]	
	工業デザイン. 計装. 製図. 人間工学		AutoDesk 3D,
509.65[09/03/11]	工程管理: 日程計画, 手順管理, 進捗管理, 出稿管理, 運搬管理		Microsoft Project[09/03/11],
547	通信工学. 電気通信		
547.09	通信機器・材料工学: 生産と流通		
547.33	オーディオ機器[音響再生装置. 音響録音装置] →: 760.9		iPodは、ここに収める。[09/03/11]
547.336	光学録音: デジタル オーディオ ディスク		
547.48	データ通信	データ通信網<一般>(工学的, 概論的なもの)は、ここに収める。例)「情報ネットワーク概論」→547.48	
547.481	データ通信回路		
547.482	データ通信方式. 通信規約[通信プロトコル]	FTP, TCP/IP等の通信プロトコルについては、ここに収める。	IPv6(Internet Protocol Version 6)[05/12/11], SSL[06/01/31], HTTP[09/03/11],
547.483	データ通信網	データ通信	NGN(Next Generation Network)[09/03/11],
547.4831	プロバイダ. ホームページ案内・紹介	→: 694.5	yahoo(→007.58)[09/03/11], google(→007.58)[09/03/11], Windows Messenger[05/12/11],
547.4832	電子メール. コミュニケーションツール	パソコン通信ソフト, 電子メールソフト は、ここに収める。 メールサーバーは、547.4836に収める。 メールマガジンは、ここに収める。 電子メールを中心にした記述は、ここに収める。[06/9/12]	EdMax, PostPet, Outlook Express, AI-Mail, Becky!, Eudora, Thunderbird,
547.4833	公衆データ通信網. 広域データ通信網	WWW, インターネット, WAN, 付加価値通信網[VAN], ISDN, はここに収める。 インターネット社会については、ここに収める。 ブロードバンド, ナローバンドは、ここに収める。 IP電話インターネット電話は、ここに収める。[07/01/15] ストリーミングソフトウェアは、ここに収める。 ユビキタス(ubiquitous)は、007.3に収める。	Internet Explorer, Netscape Communicator, Netscape Navigator, Mozilla, Opera, Firefox, Macromedia Shockwave, Skype(→: 694.5), Wiki(→547.4837)[07/01/15], VoIP, FTTH, ADSL, xDSL, JavaScript[05/12/11], Javaアプレット[09/03/11],
547.4834	Webアプリケーション作成	自動メール送信システムは、ここに収める。[05/12/11] Webサイト構築は、547.4837に収める。[09/03/11]	Struts, Curl, Interstage, Express Blend[09/03/11], Linden Scripting Language(セカンドライフのスクリプト言語)[09/03/11], Adobe Flex[09/03/11],

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
547.4835	ローカルエリア・ネットワーク	LAN、無線LAN(→547.5)、イントラネットは、ここに収める。 ファイル共有ソフト、P2Pソフトは、ここに収める。	IEEE, SoftEther, Winny[09/03/11],
547.4836	サーバー構築	サーバー構築全般は、547.4836に収める。(→:007.6341, 007.6343, 007.6344) サーバー用ソフトウェアは、ここに収める。 電子掲示版は、ここに収める。 プロキシサーバーは、ここに収める。 ネームサーバーは、ここに収める。	Apache, Samba, PHP, Xoops(ズープス), JSP, ASP, Internet Information Server, J2EE, アプリケーションサーバー, Webサイト構築(→547.4836)[09/03/11], sendmail, Cactus, Tomcat, WebSphere, squid, DNS, BIND, CGI, Zope, Perl/CGI(Perl→007.64), Microsoft BackOffice, Spring[09/03/11], Jakarta[09/03/11],
547.4837	ホームページ作成	Flash(Flashプログラミング含む)は、ここに収める。 ブログ(Weblog)は、ここに収める。 デジタル色見本は、ここに収める。 Vポータブルダイレクトは、ここに収める。[07/01/15] Wikiは、ここに収める。[07/01/15] Webサイト構築は、ここに収める。[09/03/11]	Adobe GoLive, Macromedia Dreamweaver, Macromedia Flash, Macromedia Director (→007.6377?), ホームページビルダー, ActionScript, XML[05/12/11], Wiki[07/01/15], Ajax[09/03/11], Microsoft.NET[09/03/11],
547.4838	グループウェア	→:336.572	StarOffice, Lotus Notes, Lotus Notes Domino, サイボウズ,
547.4839	セキュリティ	コンピュータ・ウイルス検知・駆除ソフトウェアは、547.4839に収める。スパイウェア対策は、ここに収める。 ネットワーク侵入検知システム、不正改ざん検知は、ここに収める。 セキュリティポリシーは、ここに収める。 ファイヤーウォールは、ここに収める。ただし、専用のハードウェアを導入する場合は、547.4836に収める。 SSLは、547.482に収める。[06/01/31] 情報資産を守る意味での情報セキュリティは、336.17に収める。[09/03/11] プライバシーマークは、336.17に収める。[09/03/11]	スパイウェア, アドウェア, Kerberos, Snort, Symantec Client Security,
547.484	データ通信機器: モデム、PAD	モデム、ルーター、ハブ等のネットワーク機器については、ここに収める。	
547.485	データ通信交換: パケット交換		
547.486	中継装置・機器	ルーター、ハブ等のネットワーク機器については、ここに収める。 ルーティング技術については、ここに収める。[05/12/11] レイヤー3スイッチは、ここに収める。[09/03/11]	
547.5	無線通信. 電波工学. 高周波工学	無線LANは、ここに収める。	IEEE 802.11, Bluetooth, IrDA,
547.8	画像工学. テレビジョン		
547.86	画像出力. 受像: テレビ受像機		

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
547.88	画像記録. 録画		
547.883	磁気録画:ビデオテープレコーダー	→548.235	
547.886	光学録画:ビデオディスク	DVD-ROMは、ここに収める。→:548.237	
548	情報工学 * ここには、工学的な取扱いに関するもののみを収め、情報科学およびシステムに関するものは007に収める		
548.2	電子計算機:デジタル計算機、アナログ計算機		周辺機器全般としてのUSB装置は、ここに収める。[09/03/11]
548.21	入力装置	スキャナ、タブレットは、ここに収める。	
548.22	演算装置:中央演算装置[CPU]、マイクロプロセッサ[MPU]		
548.23	記憶装置. 記憶媒体		
548.232	半導体記憶装置:RAM、ICディスク、ICカード	メモ리카ード(CompactFlash、SmartMedia、SDメモリーカード、メモリースティック、MMC、xDピクチャーカードなど)は、ここに収める。	
548.235	磁気記憶装置:ハードディスク、フロッピーディスク、磁気テープ装置、磁気ドラム	HDD、FDDは、ここに収める。	
548.237	光学記憶装置:光ディスク、CD-ROM	CD-R/RW、DVD±R/RW、DVD-RAMは、ここに収める。ブルーレイは、ここに収める。[07/4/26]	
548.24	制御装置	BIOS、チップセットは、ここに収める。	
548.25	出力装置:プリンタ、プロッター	コンピュータディスプレイは、ここに収める。	
548.26	端末装置		
548.29	各種の電子計算機	パソコン入門は、ここに収める。コンピュータ用語集は、ここに収めるが、特定主題の用語集については、それぞれの主題に収める。	
548.291	大型電子計算機[スーパー・コンピュータ. 汎用大型電子計算機]	スーパー・コンピュータのみ、ここに収める。	
548.293	中型電子計算機	ノートパソコンは、ここに収める。	
548.295	小型電子計算機	情報携帯端末(PDA)は、ここに収める。	
548.297	コンピュータの製作	自作パソコンは、ここに収める。	

さいたま市図書館分類表 2

2009.3.11改訂

	主題	分類基準	適用例
549	電子工学		
549.09	電子工業. 部品工業:生産と流通		
549.9	電子装置の応用		
582.3	事務機器[OA機器]→:336.56		
582.33	ワードプロセッサ. タイプライタ	ワープロ専用機、タイプライタは、ここに収める。いわゆるワープロ(文書作成)ソフトウェアは、007.6312に収める。	
673.36	通信販売. ネットワーク・ビジネス	インターネット・ビジネスは、ここに収める。	
694.5	データ伝送		
727.8	装飾文字:レタリング, モノグラフ	デジタルフォントは、ここに収める。	
742.5	写真機[カメラ]→:535.85 *シャッター、フィルタ、露出計、付属品などを含む *カメラの使い方は、ここに収める	デジタルカメラの使い方、付随品の使い方は、ここに収める。	
743	撮影技術	デジタルカメラの撮影方法・技術については、743および743.3/8に収める。	
746.7	ビデオ録画→:547.88, 778	デジタルビデオレコーダーの使い方については、ここに収める。動画編集ソフトウェアについては、007.6377に収める。	
763.9	電子音楽. 電子楽器 *ミュージック コンクレート, コンピュータ ミュージック は、ここに収める	DTM(デスク・トップ・ミュージック)は、ここに収める。音声処理ソフトウェアは、007.6391に収める。	MIDI,
809.9	タイピング:タイプライタ、パーソナル・コンピュータ、ワード・プロセッサ →:582.33 *ここには、主として教本を収める		

さいたま市図書館分類表 3
 緑ラベルを使用する分類一覧表

2011年3月

- 各国語文学の「小説. 物語」「評論. エッセイ」についてはポイント以下3桁目までの展開において、頭が9、最後の桁が3もしくは4に分類を指定した場合に緑ラベルを使用する。
- 下表は、平成23年2月の時点の所蔵資料について該当する分類番号を抜き出したもの。この後新たに刊行されるタイトル、独立する国・地域についても、上記に該当する場合は緑ラベルを用いる。

NDC	背ラベル表示	項目		
913.6	913.6	日本文学	小説. 物語	近代：明治以後
913.68	913.68	日本文学	小説. 物語	複数作家の作品集
914.6	914.6	日本文学	評論. エッセイ	近代：明治以後
914.68	914.68	日本文学	評論. エッセイ	複数作家の作品集

923.7	923.7	中国文学	小説. 物語	近代：民国以後
923.78	923.78	中国文学	小説. 物語	複数作家の作品集
924.7	924.7	中国文学	評論. エッセイ	近代：民国以後
924.78	924.78	中国文学	評論. エッセイ	複数作家の作品集

929.13	929.13	朝鮮文学	小説. 物語	
929.14	929.14	朝鮮文学	評論. エッセイ	
929.23	929.23	アイヌ文学	小説. 物語	
929.24	929.24	アイヌ文学	評論. エッセイ	
929.313	929.313	ネパール文学	小説. 物語	
929.314	929.314	ネパール文学	評論. エッセイ	
929.323	929.323	チベット文学	小説. 物語	
929.324	929.324	チベット文学	評論. エッセイ	
929.353	929.353	ミャンマー・ビルマ文学	小説. 物語	
929.354	929.354	ミャンマー・ビルマ文学	評論. エッセイ	
929.363	929.363	タイ文学	小説. 物語	
929.364	929.364	タイ文学	評論. エッセイ	
929.373	929.373	ベトナム文学	小説. 物語	
929.374	929.374	ベトナム文学	評論. エッセイ	
929.383	929.383	カンボジア文学	小説. 物語	
929.384	929.384	カンボジア文学	評論. エッセイ	
929.423	929.423	インドネシア文学	小説. 物語	
929.424	929.424	インドネシア文学	評論. エッセイ	
929.443	929.443	フィリピン文学	小説. 物語	
929.444	929.444	フィリピン文学	評論. エッセイ	
929.453	929.453	ポリネシア文学	小説. 物語	
929.454	929.454	ポリネシア文学	評論. エッセイ	
929.463	929.463	メラネシア文学	小説. 物語	
929.464	929.464	メラネシア文学	評論. エッセイ	
929.553	929.553	モンゴル文学	小説. 物語	
929.554	929.554	モンゴル文学	評論. エッセイ	
929.573	929.573	トルコ文学	小説. 物語	
929.574	929.574	トルコ文学	評論. エッセイ	
929.693	929.693	グルジア文学	小説. 物語	
929.694	929.694	グルジア文学	評論. エッセイ	
929.733	929.733	現代ヘブライ文学	小説. 物語	
929.734	929.734	現代ヘブライ文学	評論. エッセイ	
929.763	929.763	アラビア文学	小説. 物語	
929.764	929.764	アラビア文学	評論. エッセイ	
929.853	929.853	インド・アーリア語族の文学	小説. 物語	
929.854	929.854	インド・アーリア語族の文学	評論. エッセイ	
929.933	929.933	ペルシア文学	小説. 物語	
929.934	929.934	ペルシア文学	評論. エッセイ	

933.4~933.78	933	英米文学	小説.物語	
934.4~934.78	934	英米文学	評論.エッセイ	

943.4~943.78	943	ドイツ文学	小説.物語	
944.4~944.78	944	ドイツ文学	評論.エッセイ	

949.23	949.23	ベルギー文学	小説.物語	
949.24	949.24	ベルギー文学	評論.エッセイ	
949.33	949.33	オランダ文学	小説.物語	
949.34	949.34	オランダ文学	評論.エッセイ	
949.43	949.43	北欧文学	小説.物語	
949.44	949.44	北欧文学	評論.エッセイ	
949.53	949.53	アイスランド文学	小説.物語	
949.54	949.54	アイスランド文学	評論.エッセイ	
949.63	949.63	ノルウェイ文学	小説.物語	
949.64	949.64	ノルウェイ文学	評論.エッセイ	
949.73	949.73	デンマーク文学	小説.物語	
949.74	949.74	デンマーク文学	評論.エッセイ	
949.83	949.83	スウェーデン文学	小説.物語	
949.84	949.84	スウェーデン文学	評論.エッセイ	
949.93	949.93	イディッシュ文学	小説.物語	
949.94	949.94	イディッシュ文学	評論.エッセイ	

953.4~953.78	953	フランス文学	小説.物語	
954.4~954.78	954	フランス文学	評論.エッセイ	

959.93	959.93	カタロニア文学	小説.物語	
959.94	959.94	カタロニア文学	評論.エッセイ	

963	963	スペイン文学	小説.物語	
964	964	スペイン文学	評論.エッセイ	

969.3	969.3	ポルトガル文学	小説.物語	
969.4	969.4	ポルトガル文学	評論.エッセイ	

973	973	イタリア文学	小説.物語	
974	974	イタリア文学	評論.エッセイ	

979.13	979.13	ルーマニア文学	小説.物語	
979.14	979.14	ルーマニア文学	評論.エッセイ	

983	983	ロシア・ソヴィエト文学	小説.物語	
984	984	ロシア・ソヴィエト文学	評論.エッセイ	

989.13	989.13	ブルガリア文学	小説.物語	
989.14	989.14	ブルガリア文学	評論.エッセイ	
989.23	989.23	セルビア・クロアチア等	小説.物語	
989.24	989.24	セルビア・クロアチア等	評論.エッセイ	
989.33	989.33	スロベニア等	小説.物語	
989.34	989.34	スロベニア等	評論.エッセイ	
989.43	989.43	ウクライナ文学	小説.物語	
989.44	989.44	ウクライナ文学	評論.エッセイ	
989.53	989.53	チェコ文学	小説.物語	
989.54	989.54	チェコ文学	評論.エッセイ	
989.63	989.63	スロバキア文学	小説.物語	
989.64	989.64	スロバキア文学	評論.エッセイ	

989.83	989.83	ポーランド文学	小説.物語	
989.84	989.84	ポーランド文学	評論.エッセイ	
989.93	989.93	ラトビア文学	小説.物語	
989.94	989.94	ラトビア文学	評論.エッセイ	

991.3	991.3	ギリシア文学	小説.物語	
991.4	991.4	ギリシア文学	評論.エッセイ	
991.93	991.93	近代ギリシア文学	小説.物語	
991.94	991.94	近代ギリシア文学	評論.エッセイ	
992.3	992.3	ラテン文学	小説.物語	
992.4	992.4	ラテン文学	評論.エッセイ	
993.23	993.23	ケルト・アイルランド文学	小説.物語	
993.24	993.24	ケルト・アイルランド文学	評論.エッセイ	
993.33	993.33	ウェールズ文学	小説.物語	
993.34	993.34	ウェールズ文学	評論.エッセイ	
993.43	993.43	アルバニア文学	小説.物語	
993.44	993.44	アルバニア文学	評論.エッセイ	
993.53	993.53	バスク文学	小説.物語	
993.54	993.54	バスク文学	評論.エッセイ	
993.613	993.613	フィンランド文学	小説.物語	
993.614	993.614	フィンランド文学	評論.エッセイ	
993.623	993.623	エストニア文学	小説.物語	
993.624	993.624	エストニア文学	評論.エッセイ	
993.73	993.73	ハンガリー文学	小説.物語	
993.74	993.74	ハンガリー文学	評論.エッセイ	

さいたま市立図書館 ICタグ貼付仕様書

- 1 ICタグは、図書館が指定したものを使用すること。
- 2 ICタグは、縦長に貼付し、ICチップの部分を上にして背(のど)から離れるように貼付する。ICタグの読み取りの性能を発揮しやすくするため、基準となる位置を定め、基準となる位置とそこからずらした2～3ヶ所の位置を順番に使うようにする。
- 3 ICタグの基準となる貼付位置は、以下の順位による。

(優先順位①) ブックジャケットがある場合(基本型)

図書の背を左にして、ブックジャケットをはずして、図書本体の、背より20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ブックジャケットには貼付しない。

(優先順位②) ブックジャケットがない場合

*ソフトカバーの場合は(優先順位④)へ

図書の背を左にして、表紙(裏表紙)を開いた左ページ側(見返し)で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

(優先順位③) 「優先順位②」で指示した面に貼付できない場合

図書の背を右にして、表紙(裏表紙)を開いた右ページ側(見返し)で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

(優先順位④) 「優先順位③」で指示した面に貼付できない場合

図書の背を左にして、表紙(裏表紙)を開いた右ページ側(遊び紙側)で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

(優先順位⑤) 「優先順位④」で指示した面に貼付できない場合

図書の背を左にして、表紙(裏表紙)を開いた右ページ側(遊び紙側)の裏側で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

(優先順位⑥) 「優先順位⑤」で指示した面に貼付できない場合

図書の背を右にして、表紙(裏表紙)を開いた左ページ側(遊び紙側)で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

(優先順位⑦) 「優先順位⑥」で指示した面に貼付できない場合

図書の背を右にして、表紙(裏表紙)を開いた左ページ側(遊び紙側)の裏側で、のどより20mm、地より30mmくらいの位置に貼付する。ただし、この部分に本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等がある場合には、貼付しない。

「②」～「⑦」で指示した面に貼付できない場合は、次のとおりとする。

ページの一部に記述、絵、写真等がある場合、貼付位置を±30mm以内の範囲でずらして、記述、絵、写真等が隠れなければ「②」から「⑦」の順位で貼付してよい。ずらしても貼付できない場合は、ICタグを袋(9.5cm×6.5cm程度)に入れ、図書の背を左にして、表紙(裏表紙)を

開いた地から30mmくらいの、のどの部分に貼付する。ただし、児童書については、「②」から「⑦」で指示した面に貼付できない場合は、貼付せずに図書館職員に渡す。

4 貼付位置のずらし方

①文庫・新書

基準となる位置(1)：地から30mm程度、のどから20mm程度の位置

ずらした位置①(2)：基準から縦方向へタグ1/3程度

ずらした位置②(3)：基準から縦方向へタグ1/3程度、横方向へタグ1/3程度

ずらした位置③(4)：基準から横方向へタグ1/3程度

タグを貼付していくときに、貼る位置を(1)→(2)→(3)→(4)→(1)と繰り返す。

②文庫・新書以外の全ての本

基準となる位置(1)：地から30mm、のどから20mm程度の位置

ずらした位置①(2)：基準から縦方向へタグ半分程度

ずらした位置②(3)：基準から縦方向へタグ1枚分程度

ずらした位置③(4)：基準から横方向へタグ1枚分程度

タグを貼付していくときに、貼る位置を(1)→(2)→(3)→(4)→(1)と繰り返す。

5 「本の内容の一部とみなされる記述、または絵、写真等」の定義については、次のとおりとする。

①書誌事項は全て本の内容とみなす。

②見返しのデザインで単純な幾何学模様は、本の内容とみなさない。

③本の広告は、その本の内容に関係があるなしに関わらず、本の内容とみなさない。

④その他、広告は、本の内容とみなさない。

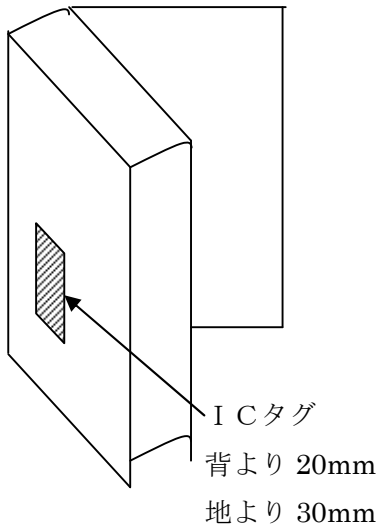
6 「3」の「②」～「⑦」についてはICタグの上に透明粘着フィルム(大きさ105mm×75mm以上)を被覆する。

7 紙芝居についてはICタグの貼付位置を次のとおりとする。

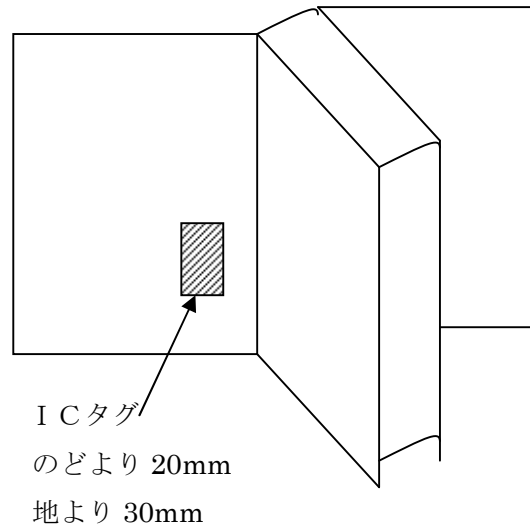
一番最後のページの裏側に貼付する。基準の位置を左側より15mm、地より50mmの位置とし「4」の貼付位置のずらし方の②と同じ要領でずらして貼付する。ただし、この部分に紙芝居の内容の一部とみなされる記述、書誌事項、絵、写真等がある場合には、貼付しない。指示した部分に貼付できない場合はページをさかのぼって貼付する。ページをさかのぼっても貼付できない場合は、貼付せずにICタグを紙芝居に添付して納品する。貼付したタグの上に透明粘着フィルム(大きさ105mm×75mm以上)を被覆する。

ICタグ貼付位置解説図

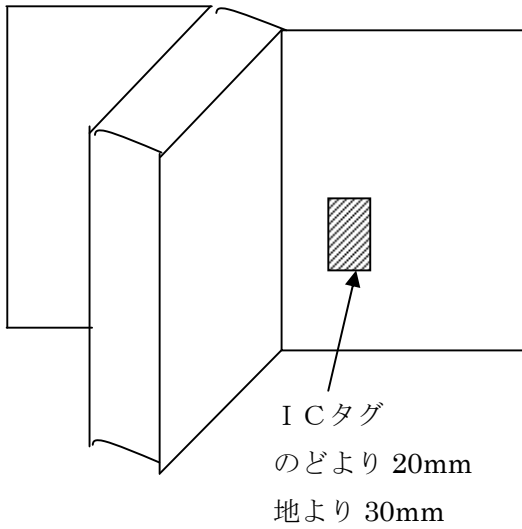
(優先順位①) の場合



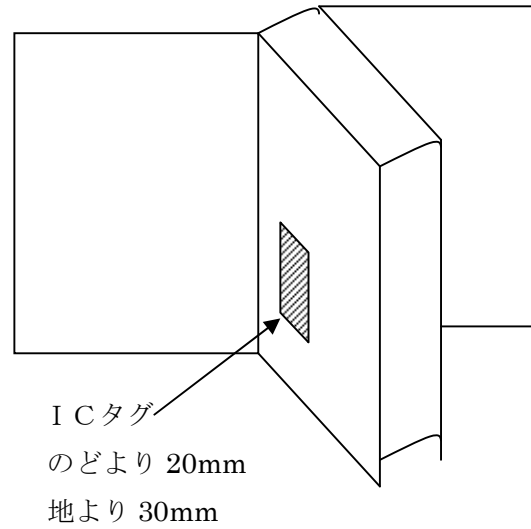
(優先順位②) の場合



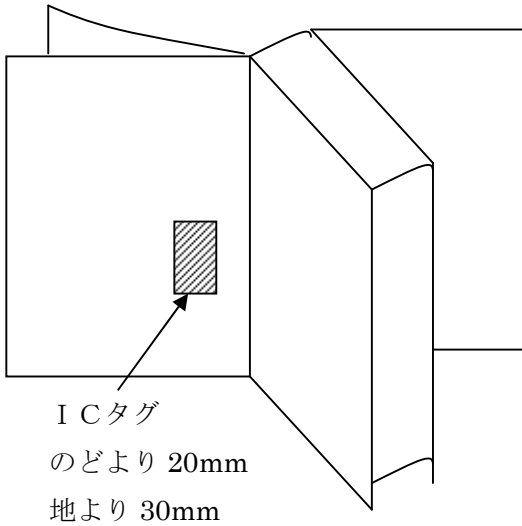
(優先順位③) の場合



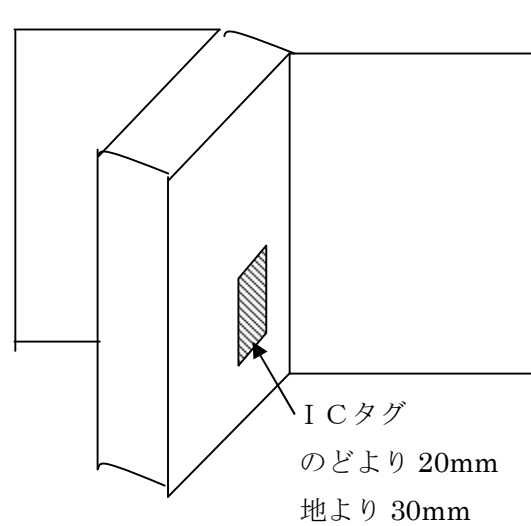
(優先順位④) の場合



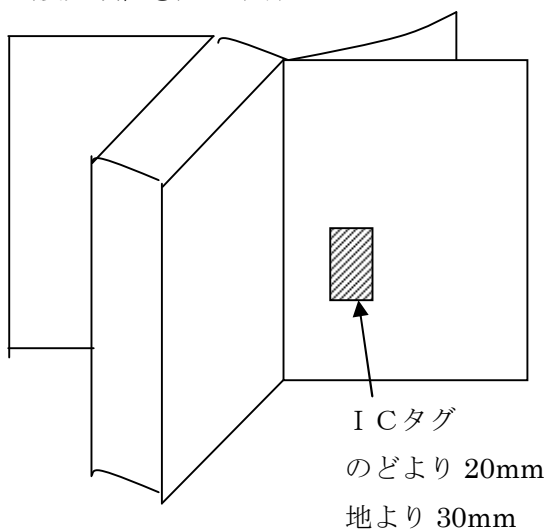
(優先順位⑤) の場合



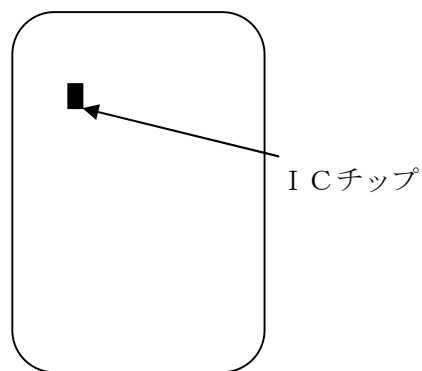
(優先順位⑥) の場合



(優先順位⑦) の場合

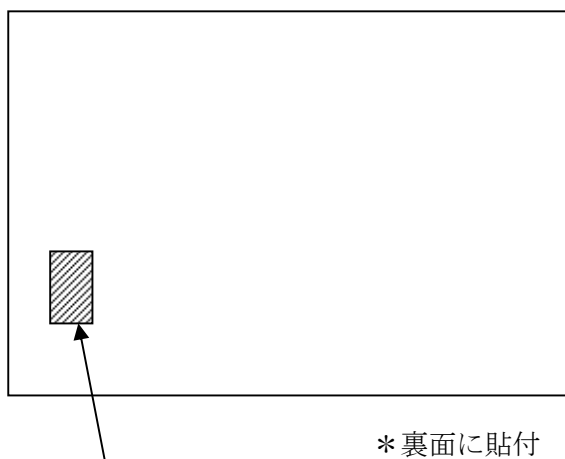


ICタグ



* ICチップの部分が背または
のどから離れるように貼付

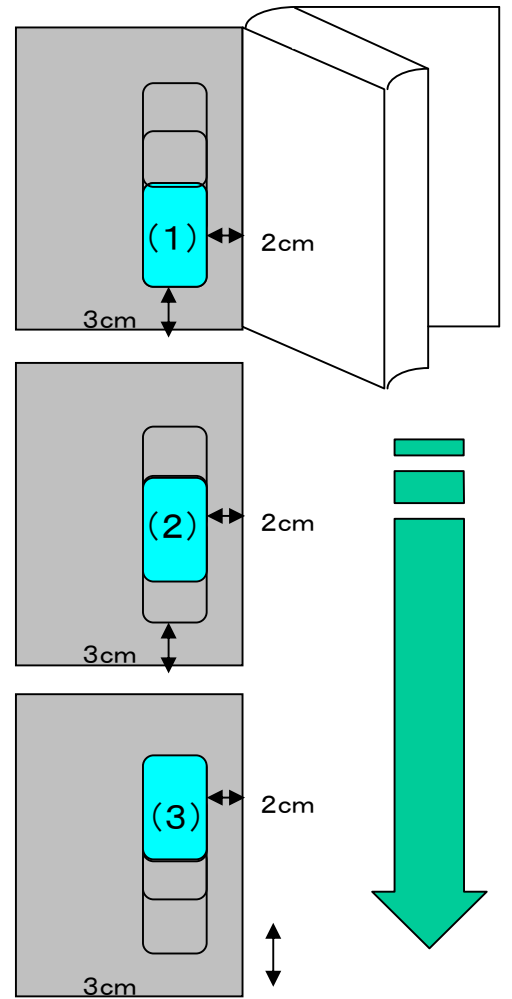
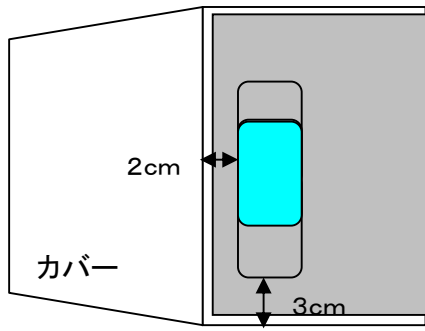
(紙芝居)



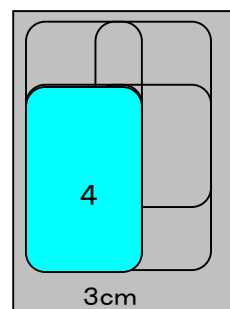
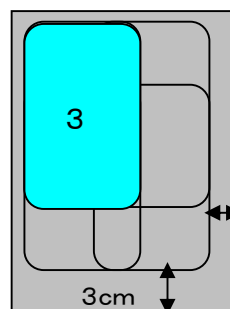
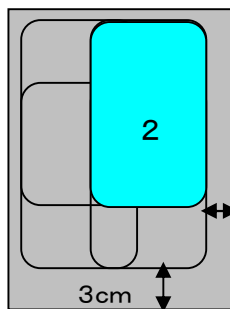
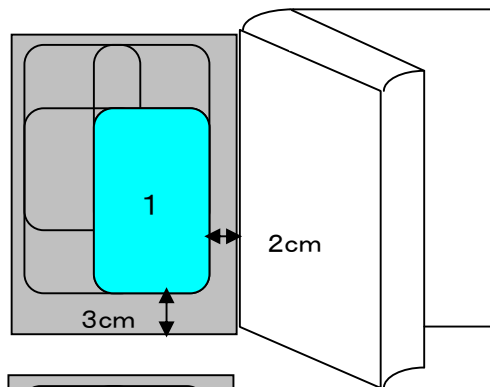
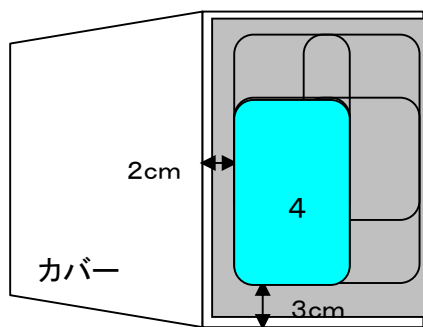
ICタグ
左側より 15mm
地より 50mm

タグの貼付位置のずらし方

文庫新書以外の全ての本の貼付位置のずらし方



文庫・新書のタグの位置のずらし方



さいたま市視聴覚資料整理仕様書

ICタグ使用図書館用仕様書

1 さいたま市の図書館に納品する視聴覚資料（視聴覚ライブラリー用の資料を除く）は、すべてこの仕様書に基づいて整理するものとする。ただし、別途指示のある場合は、その指示に従うものとする。

2 CD

2-1 請求記号

請求記号は2段とし、上段に分類記号を、下段に著作記号及び巻次を表示する。

なお、巻次がある場合は、著作記号との間を「-」（ダッシュ）で結ぶ。

2-1-1 分類記号

分類記号は、別表1「さいたま市録音資料分類表」を使用する。

2-1-2 著作記号

著作記号は、すべての録音資料に付けることを基本とする。

2-1-2-1 著作記号の選定

著作記号は、演奏者名、作曲者名、タイトル、楽器名からの頭文字二字までをカナで付す。

ただし、いずれをとるかは、別表1「さいたま市録音資料分類表」による。

長音符は省略、拗音・促音は直音とする。

（例 バンドウ→バン ヴェルディ→ヴェ ショウジ→シヨ ミッチェル→ミツ

2-1-2-2 タイトルから選ぶ場合

① 三組以上の演奏者による著作物は、タイトルの頭文字二字までをカナで付す。

② 同分類になる全集、講座、アンソロジー等のシリーズは、そのシリーズ名の頭文字二字までをカナで付す。ただし、個人全集及び1部数冊からなる同一著作物は除く。

2-1-2-3 演奏者名でとる場合

① 人名は原則として、姓からとる。ただし、ポピュラーの一部（220～292）においては、名を含めた表記の先頭からとる。

（例 ジョージ・ハリスン → ジョ ジョージ・川口 → ジョ

② グループ名の定冠詞は、省く。

（例 ザ・ビートルズ → ビト

2-1-3 巻冊記号

同一作者の同一タイトルで一部数冊からなる視聴覚資料の巻次は、算用数字を用いて付与する。

なお、セット物も同様に処理をする。

2-2 資料番号

資料番号は館コード、資料種別コードと一連番号で構成する。各図書館の指示により別表2の範囲内で使用する。

2-3 ケースの装備

2-3-1 背タイトル

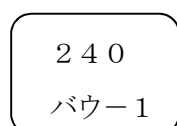
背に日本語のタイトルがないものは、日本語タイトルの帯を切り取り、ケースの背に貼付する。

2-3-2 背ラベル

背ラベルには、請求記号（分類記号・著作記号・巻冊記号）を印字する。

原則として、大きさは12mm×24mmの白無地を使用する。

上段に分類記号、下段に著作記号と巻冊を印字する。



2-3-2-1 貼付位置

背ラベルの添付は、背の最下部より10mm離れた位置とする。

2-3-3 バーコードラベル

バーコードラベルは館名、電話番号入りとし、バーは、館コード2桁、資料種別コード1桁、受入番号7桁、チェックデジット1桁の計11桁とし、それぞれの間にハイフンをいれる。

大きさは25mm×45mmとする。

2-3-3-1 貼付位置

バーコードラベルの貼付位置は、次のとおりとする。

資料の背を右にして右下部 背より1cm、地より1cm

2-3-3-2 デザイン

バーコードラベルのデザインは、別表3および別紙バーコード見本のとおりにする。

2-3-4 登録番号ラベル

バーコードと同じ番号（ハイフンを含む）を印字したもので、解説書の枚数分+CDの枚数分必要。

2-3-5 枚数表示ラベル

2枚組み以上のものはバーコードの上部に貼付する。

2-3-6 解説書あり、解説書なしラベル

解説書があるものに解説書ありラベルを、解説書の無いものに、解説書なしラベルを、資料の背を左にして右上部曲名などを隠さない位置に貼付し、透明粘着フィルムで保護する。

2-3-7 フィルムによるバーコード等の被覆

ケースに貼付したバーコード及び各種シールを保護するため、透明粘着フィルムを被覆する。

120×70～mmのサイズのものを用いて、分類ラベル・バーコードをこの1枚で被覆する。

2-3-8 解説書の装備

登録番号ラベルを表紙右下部、曲名などを隠さない位置に貼付。

透明粘着フィルムで保護する。

表紙に折りたたみの解説書が挟まれているものは、解説書を開いて読めるように、表紙に貼り付ける。

解説書がケースと一体となっている場合は、そのケースを用いて装備する。

2-3-9 使用上の注意シール

使用上の注意シールを、ケースの背を左にして左下部、フタの縁より1cm、地より1cm部分に貼付する。

2-4 CD本体の装備

2-4-1 登録番号ラベル

登録番号ラベルをレーベル面の中心より上部、曲名などを隠さない位置に貼付する。（上部に場所が無い場合は下部でもよい）。複数枚のものは各CDに貼付する。

2-4-2 ICタグ

ICタグは、図書館が指定した条件に見合うものを使用することとする。

2枚組以上の場合、1枚目にだけ貼付する。

2-4-2-1 貼付方法

貼付位置がずれないように、DVD/CDディスクストンパー（以下ストンパー）を用いて、ICタグの貼付を行う。

（必ずICタグを貼付する前に、登録番号ラベルの貼付を行うこと）

ICタグの保護シールを剥がし、粘着面を上に向けてストンパーの台座置く。ディスクのレーベル面を下に向けて、ストンパーのシリンダーに置く。

ICリーダで、ICタグが正しく作動することを確認する。（動作確認は必ずICタグの保護シールを剥がした後に行うこと）また、正しく作動しない場合は、そのICタグを使用しないこと。

シリンダー（小円柱）を台座まで押して、ディスクとラベルを接着させる。

3 カセット・テープ（CT）

3-1 請求記号

請求記号は2段とし、上段に分類記号を、下段に著作記号及び巻次を表示する。

なお、巻次がある場合は、著作記号との間を「-」（ダッシュ）で結ぶ。

3-1-1 分類記号

分類記号は、別表1「さいたま市録音資料分類表」を使用する。

3-1-2 著作記号

著作記号は、すべての録音資料に付けることを基本とする。

3-1-2-1 著作記号の選定

著作記号は、演奏者名、作曲者名、タイトル、楽器名からの頭文字二字までをカナで付す。

ただし、いずれをとるかは、別表1「さいたま市録音資料分類表」による。

長音符は省略、拗音・促音は直音とする。

(例 バンドウ→バン ヴェルディ→ヴェ ショウジ→シヨ ミッチェル→ミツ)

3-1-2-2 タイトルから選ぶ場合

① 三組以上の演奏者による著作物は、タイトルの頭文字二字までをカナで付す。

② 同分類になる全集、講座、アンソロジー等のシリーズは、そのシリーズ名の頭文字二字までをカナで付す。ただし、個人全集及び1部数冊からなる同一著作物は除く。

3-1-2-3 演奏者名でとる場合

① 人名は原則として、姓からとる。ただし、ポピュラーの一部(220～280)においては、名を含めた表記の先頭からとる。

(例 ジョージ・ハリスン → ジョ ジョージ・川口 → ジョ)

② グループ名の定冠詞は、省く。

(例 ザ・ビートルズ → ビト)

3-1-3 巻冊記号

同一著作者の同一タイトルで一部数点からなる視聴覚資料の巻次は、算用数字を用いて付与する。

なお、セット物も同様に処理をする。

3-2 資料番号

資料番号は館コード、資料種別コードと一連番号で構成する。各図書館の指示により別表2の範囲内で使用する。

3-3 ケースの装備

3-3-1 背タイトル

背に日本語で曲名・演奏者名を明示するものを貼付する。

3-3-2 背ラベル

背ラベルには、請求記号(分類記号・著作記号・巻冊記号)を印字する。

原則として、大きさは12mm×24mmの白無地を使用する。

上段に分類記号、下段に著作記号と巻冊を印字する。

240

パウ-1

3-3-2-1 貼付位置

背ラベルの添付は、背の最下部より8mm離れた位置とする。

3-3-3 バーコードラベル

バーコードラベルは館名、電話番号入りとし、バーは、館コード2桁、資料種別コード1桁、受入番号7桁、チェックデジット1桁の計11桁とし、それぞれの間にハイフンをいれる。

大きさは25mm×45mmとする。

3-3-3-1 貼付位置

バーコードラベルの貼付位置は、次のとおりとする。

ケースの背を左にして左下部 背より8mm、地より8mm

3-3-3-2 デザイン

バーコードラベルのデザインは、別表3および別紙バーコード見本のとおりにする。

3-3-4 登録番号ラベル

バーコードと同じ番号（ハイフンを含む）を印字したもので、解説書の枚数分+カセット本体の個数分必要。

3-3-5 枚数表示ラベル

2枚組み以上のものはバーコードの上部に貼付する。

3-3-6 解説書あり、解説書なしラベル

解説書があるものに、解説書ありラベルを、解説書の無いものに、解説書なしラベルを、資料の背を左にして右上部曲名などを隠さない位置に貼付し、透明粘着フィルムで保護する。

3-3-7 フィルムによるバーコード等の被覆

ケースに貼付したバーコード及び各種シールを保護するため、透明粘着フィルムを被覆する。

105×110mmのサイズのものを用いて、分類ラベル・バーコードをこの1枚で被覆する。

3-3-8 解説書の装備

録番号ラベルを表紙右下部、曲名などを隠さない位置に貼付。

透明粘着フィルムで保護する。

3-4 CT本体の装備

A面のリール穴上部に、登録番号ラベルを貼付する。

4 DVD

4-1 請求記号

請求記号は1段とし、分類記号を表示する。

4-1-1 分類記号

分類記号は、別表2「さいたま市映像資料分類表」を使用する。

4-2 資料番号

資料番号は館コード、資料種別コードと一連番号で構成する。各図書館の指示により別表2の範囲

内で使用する。

4-3 ケースの装備

4-3-1 背ラベル

背ラベルには、請求記号を印字する。

原則として、大きさは12mm×24mmの白無地を使用する。

24

4-3-1-1 貼付位置

背ラベルの添付は、ジャケットの背の最下部より10mm離れた位置とする。

4-3-2 バーコードラベル

バーコードラベルは館名、電話番号入りとし、バーは、館コード2桁、資料種別コード1桁、受入番号7桁、チェックデジット1桁の計11桁とし、それぞれの間ハイフンをいれる。

大きさは25mm×45mmとする。

4-3-2-1 貼付位置

バーコードラベルの貼付位置は、次のとおりとする。

トールケース、両開き紙製パッケージでは、背からみて右側のジャケットの左下部 背より1cm、地より5mm。

CD型ケースでは、資料の背を右にして右下部 背より1cm、地より1cm

上記いずれの装備においても、DVDの仕様（時間・層・画面・音声等）、製作に関する記載（製作年、製作国等）を隠さないこと。

4-3-2-2 デザイン

バーコードラベルのデザインは、別表3および別紙バーコード見本のとおりにする。

4-3-3 登録番号ラベル

バーコードと同じ番号（ハイフンを含む）を印字したもので、解説書の枚数分+DVDの枚数分必要。

4-3-4 枚数表示ラベル

2枚組み以上のものはバーコードの上に貼付する。

4-3-5 解説書あり、解説書なしラベル

解説書があるものに、解説書ありラベルを、解説書の無いものに、解説書なしラベルを、バーコードの上に貼付する。（枚数表示ラベルがある場合は上が枚数表示ラベル、下が解説書ラベルとする）

4-3-6 DVDラベル

背ラベルの上部に貼付する

4-3-7 著作権啓蒙シール

日本図書館協会を通じて購入したもので、かつトールケースの場合は、著作権啓蒙シールをケース内側に貼付する。

4-3-8 承認シール

日本図書館協会を通じて購入したもので、承認シールが別添となっているものは、バーコードの右側に貼付する。

4-3-9 フィルムによるバーコード等の被覆

次のとおりとする

トールケースでは、バーコードの上に3cm×6cmの透明粘着フィルムを被覆する。

CD型ケース、両開き紙製パッケージでは、120×70～mmのサイズのものを用いて、分類ラベル・バーコードをこの1枚で被覆する。

4-3-10 解説書の装備

登録番号ラベルを表紙右上部、情報などを隠さない位置に貼付し、透明粘着フィルムで保護する。

4-3-11 使用上の注意シール

使用上の注意シールをバーコード上部、解説書ありなしシール及び枚数表示シールが隠れない位置に貼付する。

4-4 DVD本体の装備（記録が両面になされているものを除く）

4-4-1 登録番号ラベル

登録番号ラベルをレーベル面の中心より上部、曲名などを隠さない位置に貼付する。（上部に場所が無い場合は下部でもよい）。複数枚のものは各DVDに貼付する。

4-4-2 ICタグ

ICタグは、図書館が指定した条件に見合うものを使用することとする。

2枚組以上の場合、1枚目にだけ貼付する。

4-4-2-1 貼付方法

貼付位置がずれないように、DVD/CDディスクストーンパー（以下ストーンパー）を用いて、ICタグの貼付を行う。

（必ずICタグを貼付する前に、登録番号ラベルの貼付を行うこと）

ICタグの保護シールを剥がし、粘着面を上に向けてストーンパーの台座置く。ディスクのレーベル面を下に向けて、ストーンパーのシリンダーに置く。

ICリーダで、ICタグが正しく作動することを確認する。（動作確認は必ずICタグの保護シールを剥がした後に行うこと）また、正しく作動しない場合は、そのICタグを使用しないこと。

シリンダー（小円柱）を台座まで押して、ディスクとラベルを接着させる。

5 ビデオ

5-1 請求記号

請求記号は1段とし、分類記号を表示する。

5-1-1 分類記号

分類記号は、別表2「さいたま市映像資料分類表」を使用する。

5-2 資料番号

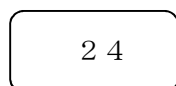
資料番号は館コード、資料種別コードと一連番号で構成する。各図書館の指示により別表2の範囲内で使用する。

5-3 ケースの装備

5-3-1 背ラベル

背ラベルには、請求記号を印字する。

原則として、大きさは12mm×24mmの白無地を使用する。



5-3-1-1 貼付位置

背ラベルの添付は、ジャケットの背の最下部より10mm離れた位置とする。

5-3-2 バーコードラベル

バーコードラベルは館名、電話番号入りとし、バーは、館コード2桁、資料種別コード1桁、受入番号7桁、チェックデジット1桁の計11桁とし、それぞれの間にハイフンをいれる。

大きさは25mm×45mmとする。

5-3-2-1 貼付位置

バーコードラベルの貼付位置は、次のとおりとする。

背からみて右側のジャケットの左下部 背より1cm、地より5mm。

5-3-2-2 デザイン

バーコードラベルのデザインは、別表3および別紙バーコード見本のとおりにする。

5-3-3 登録番号ラベル

バーコードと同じ番号（ハイフンを含む）を印字したもので、解説書の枚数+ビデオ本体数分も必要。

5-3-4 巻数表示ラベル

2枚組み以上のものはバーコードの上部に貼付する。

5-3-5 解説書あり、解説書なしラベル

解説書があるものに、解説書ありラベルを、解説書の無いものに、解説書なしラベルを、バーコードの右側に貼付する。（枚数表示ラベルがある場合は上が枚数表示ラベル、下が解説書ラベルとす

る)

5-3-6 ペーパーベルト

解説書がある場合、ケース内側に貼付する。ただし2本組みのものには貼付しない。

5-3-7 著作権啓蒙シール

日本図書館協会を通じて購入したものは、著作権啓蒙シールをケース内側に貼付する。

5-3-8 フィルムによるバーコード等の被覆

バーコードの上に3cm×6cmの透明粘着フィルムを被覆する。

5-3-9 解説書の装備

登録番号ラベルを表紙右上部、情報などを隠さない位置に貼付し、透明粘着フィルムを被膜する。

5-4 ビデオ本体の装備

5-4-1 登録番号ラベル

窓を上、背側を手前にして、左側の窓に貼付する。複数巻のものは各ビデオに貼付する。

5-4-2 承認シール

日本図書館協会を通じて購入したもので、承認シールが別添となっているものは、窓を上、背側を手前にして、右側の窓に貼付する。

5-4-3 ICタグ

ICタグは、図書館が指定した条件に見合うものを使用することとする。

2枚組以上の場合、1枚目にだけ貼付する。

5-4-3-1 貼付方法

ICタグの保護シールを剥がし、ICリーダで、ICタグが正しく作動することを確認する。また、正しく作動しない場合は、そのICタグを使用しないこと。

ICタグをビデオ本体の窓と窓の間に貼付する。

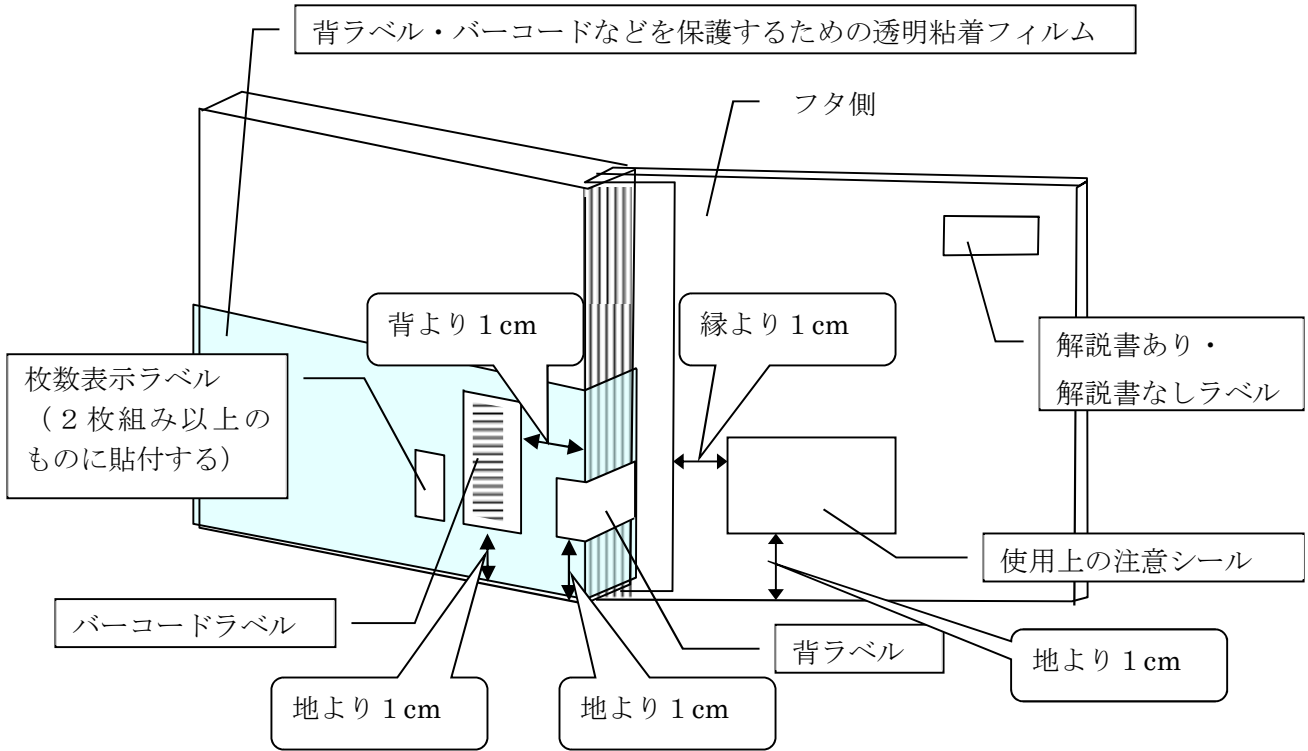
5-4-3-2 ICタグ保護フィルム

登録番号ラベル、承認シール、ICタグを貼付した上に4cm×16cmの透明粘着フィルムを被膜する。

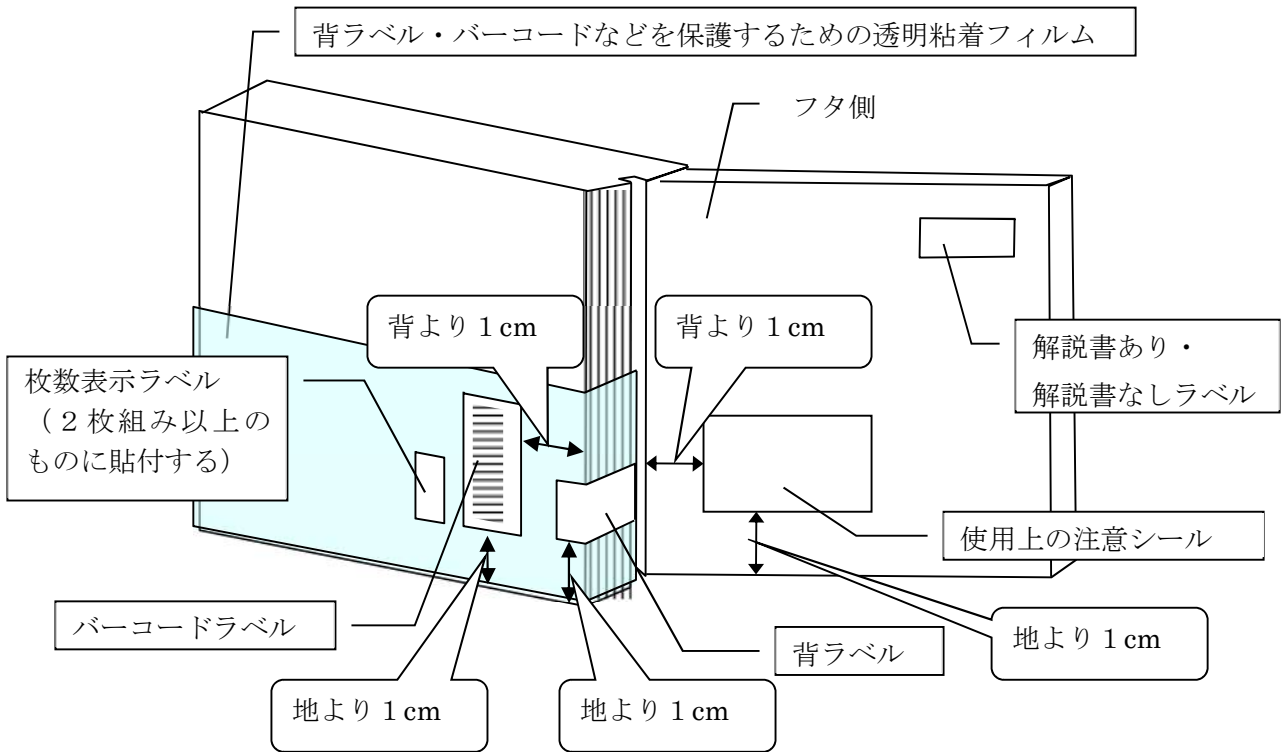
IV ICタグ

2 CD

2-3 ケースの装備

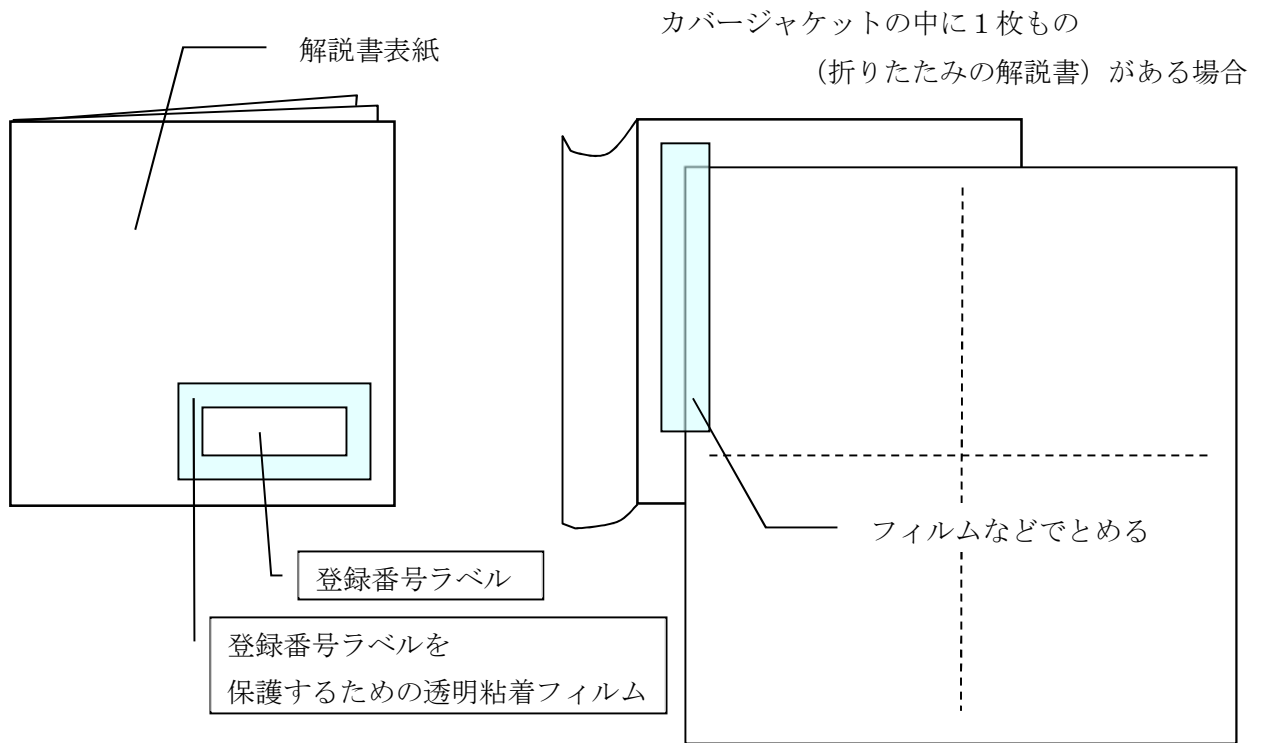


(組み物)

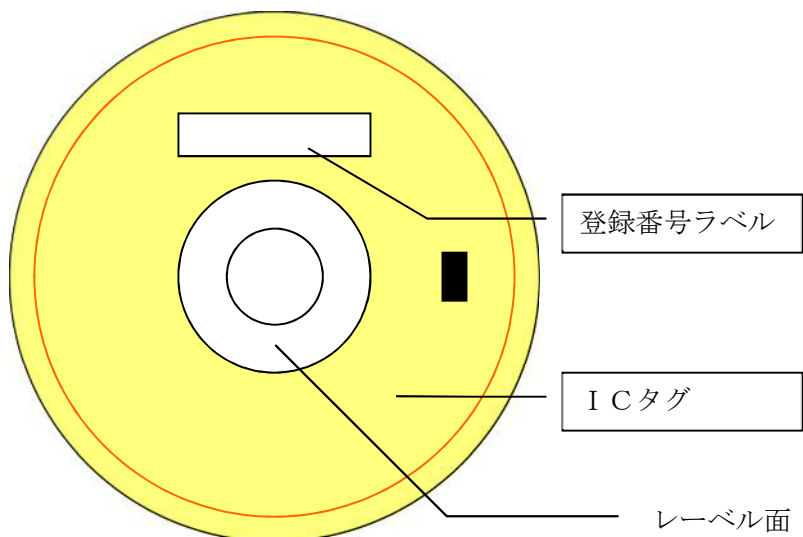


IV ICタグ

2-3-8 解説書の装備



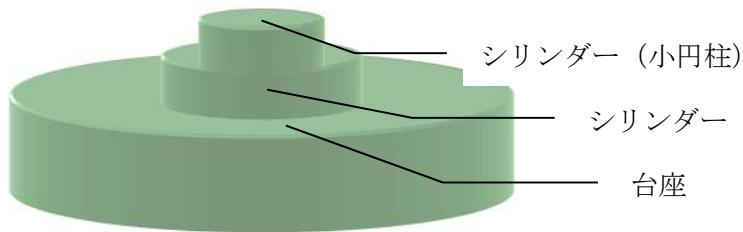
2-4、4-4 CD・DVD本体の装備



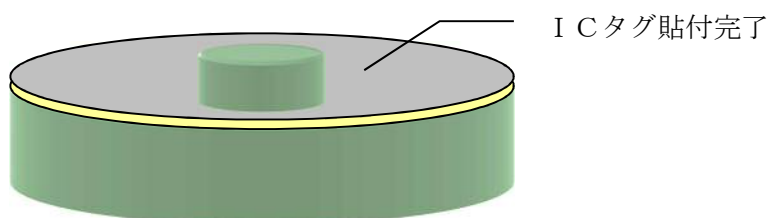
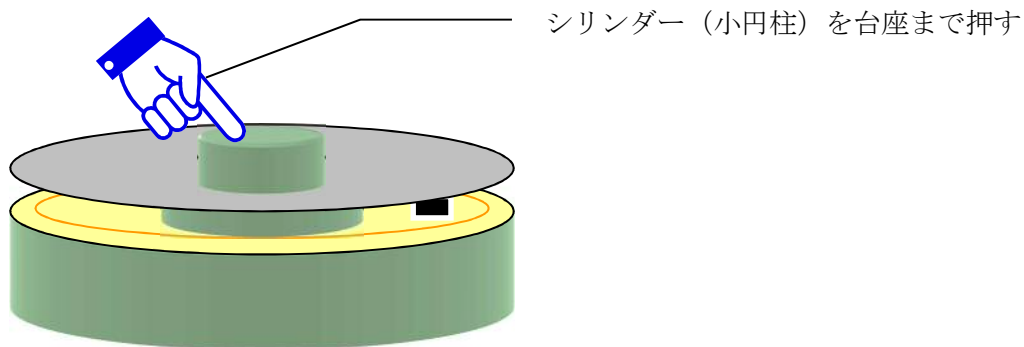
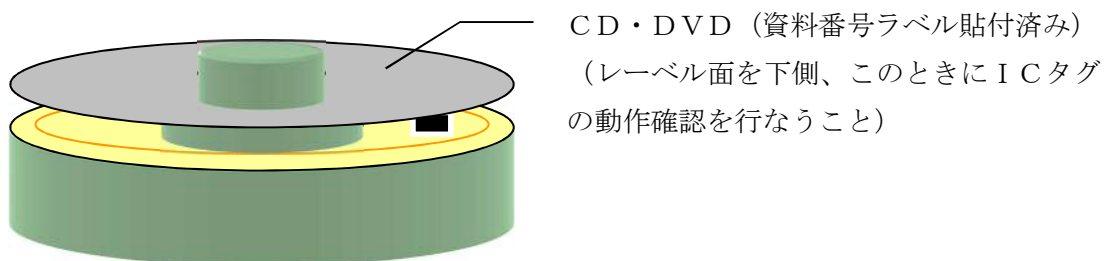
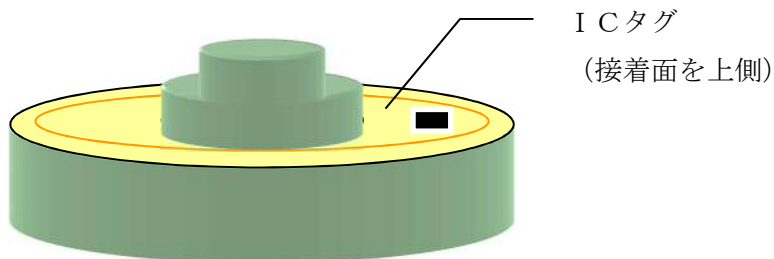
IV ICタグ

2-4-2-1、4-4-2-1 ICタグ貼付方法

DVD/CDディスクトンプアー



ICタグ装備の仕方

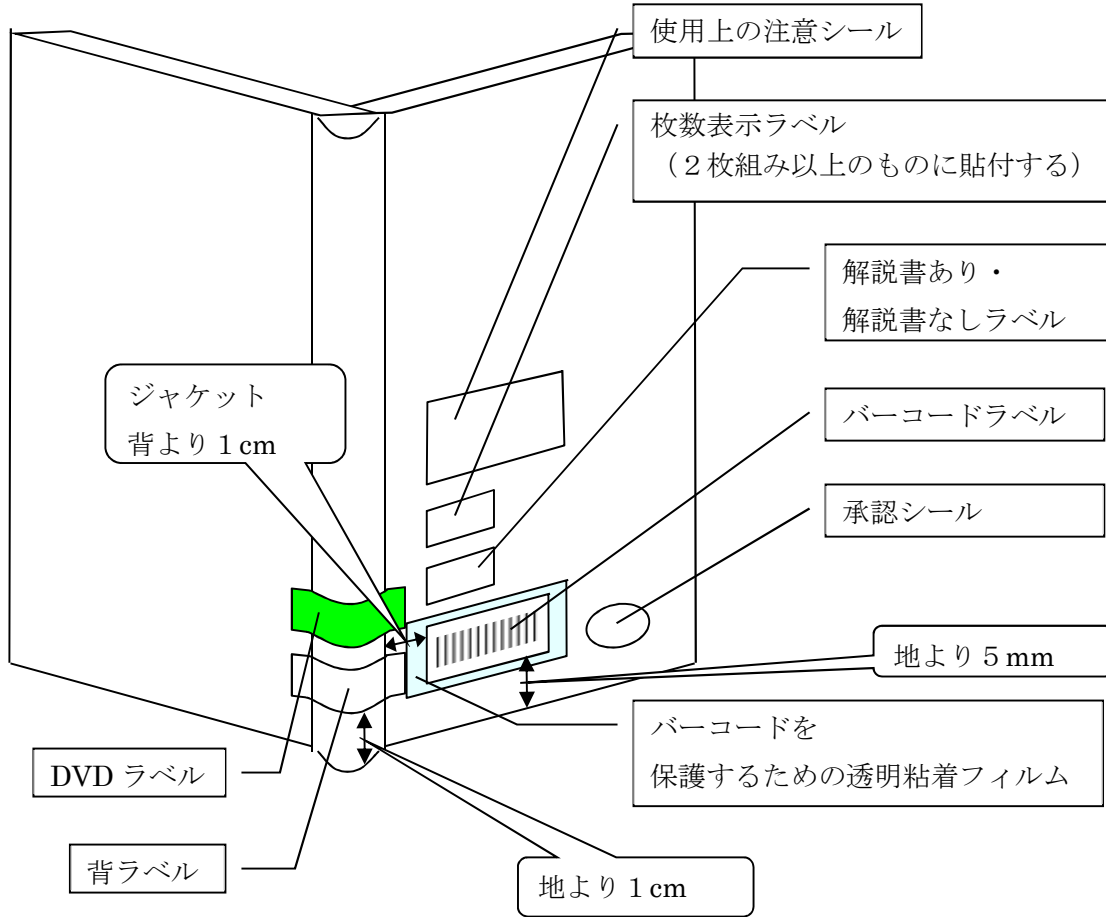


IV ICタグ

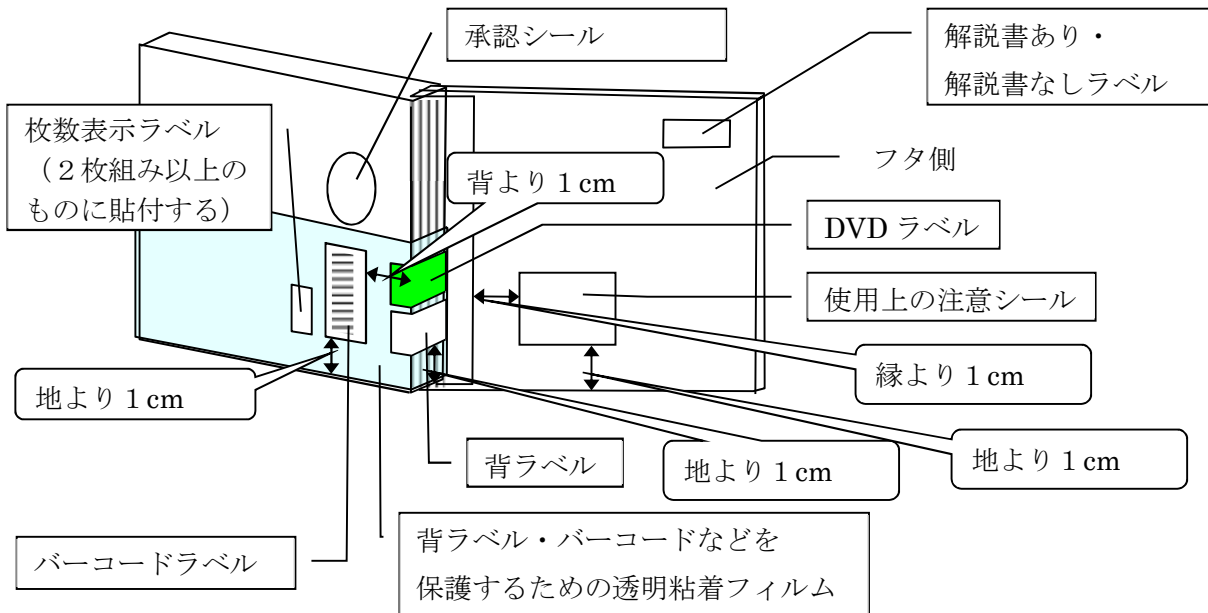
4 DVD

4-3 ケースの装備

(トールケース)

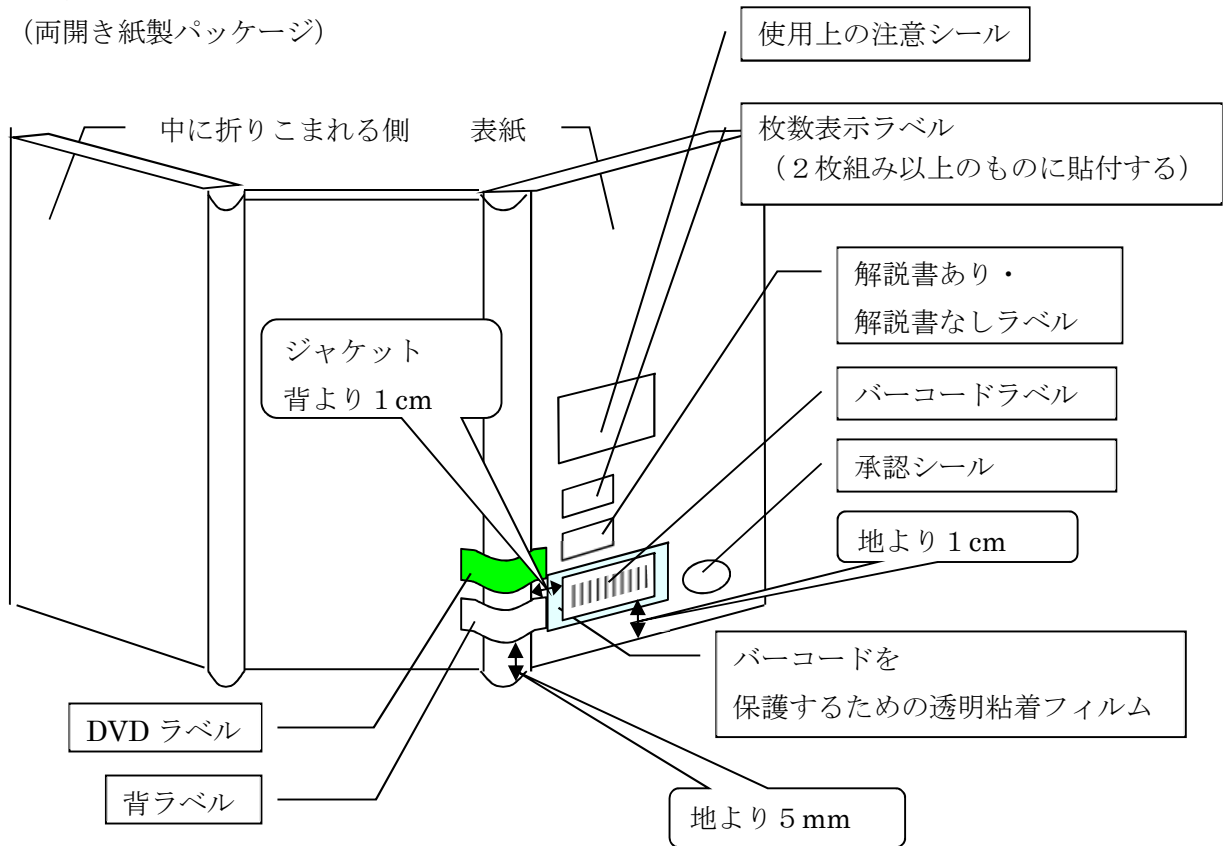


(CD ケース)



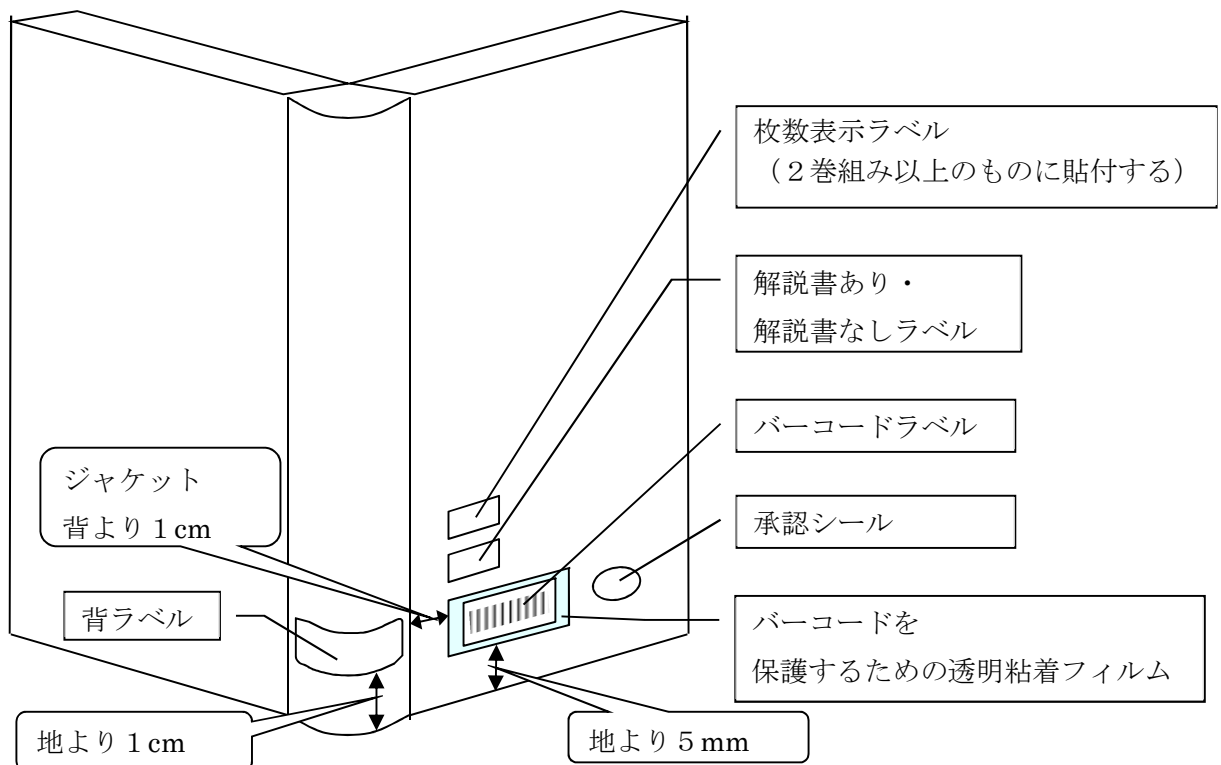
IV ICタグ

(両開き紙製パッケージ)



5 ビデオ

5-3 ケースの装備



IV ICタグ

5-4 ビデオ本体の装備

